驛遞局認可

明治十九年十一月廿五日發行

女學雜誌

毎月三回發兌
一册正價五錢
一ヶ月十五錢

第四十貳號

東京 女學雜誌社

明治十九年十一月廿五日發行

驛遞局認可

女學雜誌

每月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

第四十貳號

東京　女學雜誌社

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 42. November 25th, 1886.

第四拾貳號

●珊瑚の玉 (十三)

○紫式部、清少納言、伊勢、和泉式部、赤染右衛門、大貳三位、右近大將道綱の母、安嘉門院の四條、此等を合はせて和文の八大家と云ふ玆に此等の大家あり彼にはスタイル、ブローニング等の女學士あり人たれか女に文雄なしと云ふ

○孔子曰く女子と小人は養ひがたしストレーボ曰く女子と卑人とは哲學を以て之を淸潔神聖に導かんと難しと然れども歐米當今の現況を見て社會の道徳を婦人の力によりて多く維持するを知らば誰か斯る東西の古人の言を信ぜん

○チャーレスアントーニー曰く西國に於て女流の地位を高めたるものは一に基督敎の流行あり二に十字軍の感動あり三にシバルリー也四にかの改革なり

○ロールドブローグハム曰く女子をして正當の地位を得せしめんには先づ世の法律を全變せざるべからずと蓋し今の法律はたゞ男子に利して女子に不利なるものあり我國について之を云はんか離婚の慣法の如き、梅毒檢査條例の如き、財産遺傳の法の如き仕官出版上の法律の如きを云ふなるべし然れども今の法律が不適當とあり得る程に女流の進歩なくんば遂にブローグハムの言を可とする能じ

女學雜誌第四拾貳號

明治十九年十一月廿五日

●社説

○女子と理學（第一）

理學とハ實物を基として道理を研窮する所の學文なり。土の性を見分て地質の善惡を定るを地質學と云ひ金銀玉石の成立用方等を窮るを金石學と云ひ草木の成長して花を開き實を結ぶの事理を尋るを植物學と云ひ犬猫牛馬を初として高きは吾等人類に至る迄大凡そ世に活動する生物の性質効能を學ぶを動物學と云ふ又土石金玉草木動物の何たるを問はず凡そ其の何如なるものより成りて何如に變化すべきやを研窮するを化學と云ひ草木動物等の何如に生出して何如に榮枯し繁殖するやを推知するを生理學と云ふ又此等の理學を集めて實際に適用し或ハ金石學によりて鑛山採金の方を考へ或は地質學化學生理學に據りて作物の耕作家畜の飼養を承知するとあり此に於てか鑛山學農學の如きものあるなり。此等の學文は皆な有形の實物を基として道理を研窮するが故に之を稱して理學とは云へり之れかの歌を咏じ詩を作るの法を初として政治經濟法律等に關する所の道理を窮め更に幽微なる人心の變化を寫し更に隱奧なる神明の存在を證する等凡そ無形の事件を基として道理を研窮する所の學文を稱して或ハ文學と云ひ或は無形理學を名くるに對して特に一種の名稱を附したる者也

蓋し昔は人たゞ文學の趣味を知りて多く無形の事件を研窮したり故に議論大抵漠然たる空理に流れて學者ハ概ね實用に迂遠なるものなりき然るに今を距る一二百年前の頃よりして有形の事物を研窮すると次第に流行し當十九世紀は或は呼んで理學世界と稱するものあるの有樣とはなれり。然れば紙鳶の糸より發明したるフランクリンの電氣ハ或ハ一瞬にして千里に音信を通ずる電信機となり或は一輝して四方ニ光明を發する電氣燈となり湯沸の蓋より發明したるワットの蒸氣は或は蒸氣船となりて數十日に世界を一週し或は蒸氣車となりて一日に大王國を通走し或は數多の蒸氣機械となりて一轉よく數百人の勞に代るに至れり其他ゼンチルの種痘いよ〳〵行れて天然痘の害殆んど滅しコッフホの研究効を得て慘酷なる虎烈剌病の猛威は漸く力を減ずるが如し彼の作物の收穫增加して食に佳味あるは農學の大に開たる賜なりかの勞力の苦減少して身に收益多きは工學の大に進みたる賜なり或は船車運轉の理いよ〳〵行れて有無相易る商賣ます〳〵隆盛となり文明

日に開化して世界人民の幸福今日の地位に至れると其力多くは理學の進步に由ると云ふ。之を以て當今西洋人の理學を見ると敢て昔日の例にあらず或は理學奬勵の會を開き或は理學上の發明に賞金を附與し或は子弟の敎育に理學の制度を多くし專ら理學を開進して世上の實益を舉ることを計畫するなり

顧て我國當今の學風を見るに憂ふべきもの一にして足らず中に就て吾人が尤も慨歎する所の者は理學の光明未だ我國の文壇に發輝せざるの一事なり竊に惟るに昔し我國唐制の開化に眩惑して專ら浮華の文物を好尙したるより學者率ね實際に用なき無形の事理を講究し當世に効なきを以てろの仙なるものとはしたり故に藤原に詩歌の花其色を深くし德川に文章の風其香を流して文學の進步は著しき程度に達したりと雖もかの實物を基として實益を慮る所謂る理學なるものに在りては近く二三年前の日に至る迄て未だ其萌芽をだも此の日本に開かざりしなり。幸にして我政府は夙に大學に理學の敎課を備へ數多の英才を之が爲に養成したるが故に今や其人々の世に對するの効能少く世人に知られて今日往々理學の重んずべきを言ふものあるに至れり然れども今の文壇に將たる者は皆大抵未だ理學の味を實驗せざるものなり今の所云る有志者なる者は概ね皆未だ理學を知らざるの人也今の敎育を受る所の學生と雖も其の私立學校にあらん者は理化學の一班をも承知せずして早く既に其名譽ある卒業證書を領するものあり勢ひ如此なるが故に理學の志想は未だ文壇に入席せず理學の光明は尙ほ文筆會談の間に發輝するを得ざるなり。吾人は西洋の人がいよ〳〵理學を重んじていよ〳〵理學の効德を收るを見顧みて當今我邦の學風如此く理學に淡泊なるを知り常に慨歎の思を禁ずる能はざる也

我邦人は數百年間の經歴に依りて既に文學に沈醉するの性質を得たり今や之をして理學の尊むべき所以を知らしむるは一の難事なり之をして理學の味を覺らせ大に之を利用せしむるは更に不容易の難事なりとす茲に於てか吾人は女子に理學を敎授するとの今日特に必要なるを知る也。抑も理學は啻に男子のみの講究すべきものにあらず吾人が當今我邦に理學の志想なきを憂ふるものは啻に男子の上に於てのみ之を言ふにあらず女子の理學を知らざるは吾人の憂にして女子に理學を敎授するの必要は何の時を問はず常に同きものなり然れども吾人は日本男子が特に文學に沈醉せる宿癖あるを知るが故に亦我國の女子に理學を學ばするとの必要なるを感じ現今我國に

理學を奬勵するの甚だ急務たるを知るが故に亦た當今の女子に理學を敎授するの甚だ切要なるとを信ずるものなり

凡そ女子の性文を好みて理を味ひざるを常とす故に其の稍や敎育を受たる者の平常愛誦する所ハ歷史傳紀小說の類なり其自ら作る所の者ハ詩歌雅文稗史の類なり此に於てか平生の談話大抵如此き文事の區域を出るを稀とす若しそれ男女交際の道開けて彼此自由に相會談するとならん歟女子が問ふ所の事は歷史傳紀の事實にして其好んで談ずる所の事ハ小說中の事情なるべし事此に至らバ交際を重んずるの男子ハ勢ひ如此き文學を精知して會談に辱を蒙らざるの用意に時日を惜まざるに至らん故に男女の交際いよ〱開け會話の談緒多く浮華の文學に入りて男子の學風亦多く浮文に流るゝを常とす試に歐米交際社會の有樣を見るべし數多の學士ハ會話の用意に幾干の時間を損し女流の御相手に幾干の理學志想を減ずるや事情を知るものゝよく熟知する所ならん蓋し女子の目前には男子たるもの餘りに高倘の道理を談ぜざるを禮とす故に平素自ら研究する所の深理ハ之を口にするを稀にして而も浮文實なきの談話を女子の言ふが儘に應答す此應答にして明ならずんバ則ち女子の爲に無學視さるゝものあり之を以て交際社會を重んぜざるスペンセルよして初て歷史傳紀の敎育を輕んずるを得べし尋常一般の男子は滔々としてこれ女流の談手たらんとを欲し理學講究の傍間を殺いでだも倘ほ文學の知識を得んとを望むもの也。故に吾人は我邦に理學を奬勵せんとを希圖するよ當りて向後男女交際の道大に開けんとするの一事を慮り我姉妹をして歐米婦人が交際社會に於けるの行爲に似せしめざらんとを望み又我姉妹をして共に理學を好み共に理學を奬勵し以て我邦に理學の志想を充實するに大功あらしめんとを希ふ是れ當今の女子敎育に理學を多くするとを要する由緣の一なり(未完)

叢話

○米國婦人の事業(其二)

米國婦人禁酒會の會頭フランセスウイルラルド孃が演說中倘ほ左の如き爽快なる報告あり

文書部は部長エスセルハウス夫人の撓みなき盡力により當年中に五万四千の報告を發し倘ほ宗敎及び農業に關する新聞雜誌七百余部を受取たり吾等は一層此事業を擴張し凡そ他の新聞雜誌中に本會の主義を汚がす如き文辭ある

ときハ成べく其新聞雜誌中に於て之を駁し得るの都合を備へざる可らず蓋し楔ハ楔を入れたるの處よりしてたゞよく之を消すを得べし若しニウヨークトリビユン新聞に不都合なる議論ありたらんに之を吾がユニチン・シグナル中に辨駁すとも之を讀む所の人は即ち此辨駁を要せざるの人なるべし故に吾等ハ尚一層手廣く諸新聞雜誌を取寄せ又た部長を補助すべき書記を雇ひ以て他の文書の暴論を駁滅せざる可らず。●吾等は又此部に更に一人の書記を置き當冬中に諸所の所謂る大新聞雜誌社に書を送り當今言論の自由なるに任せて往々不德の言辭を其紙上に掲げらるゝ等の事なからんを切望すべし

法律部は部長ツルレース夫人書記ワルス夫人の盡力により大なる進步を為したり抑も禁酒の法律を制定し得らるゝの日は尚遙かに前途にありや之を知る可らずと雖も攪動者の王と呼ばるゝダニエルチーコンテル氏の言の如く吾等先づ最上の事を希望せざる可らず然らバ則ち一二を收むるを得べし大凡そ改革の事を行ハんには何人と雖も此の行為を非難せざるべし吾等が法律部に於けるの盡力は實に之が為めあり

インヂアナ州の婦人は亞片の害を防滅するヿに對し吾會の盡力あらんヿを望み其一人ヘーブンス夫人は之が為に其力を盡さんヿを申出られたり又南部カリフホーニアの姉妹は煙草部の事業を一層擴張して尚ほ之を麻醉物部と改稱せんヿを勸告ありたり吾等は既に若く之を改稱し且つヘーブンス婦人を此部の演說員としたり

吾國の各州に於ては出願者あるに隨ひ女牢及び女兒職業學校を建築せんとす故に吾會々員にして此事に熱心ある者は喜んで之が為に盡力せんヿを欲す

ノースフヒールドのクシーク夫人は酒毒の為に無能となりたる人々を容るべき家屋を設けんと欲し之が為に久しく盡力して今や政府の注意をも動かすに至れり抑も斯る無能者は適當の監督者ありて之を監督するにあらずんバ全く無用の人となり其の家族と共に住するときは家族之が為に大に困難するを常とす然るに今ま此類の人を容るべき養育院あるなし同夫人がその設立に盡力あるに對し諸君よろしく贊成あるべし

シカゴ府には本會員の盡力によりてマルクワシントンホームト云へる養育院を建設し尚ほウイリアムドッチ夫人とニ

ニューヨークの婦人方との盡力により紐育府内に同樣の院を設けたり何れも皆な酒害の爲に貧窮となりたる婦人を養育するの場所なり博士ラッシはその有名なる論文中に大酒者の財產は之を其妻に讓らしむべしと論じ玉へり然るに大酒者にして財產あるものは殆んど稀なり彼等一朝監獄に送らるゝときは酒に迷ひ罪を暴にしたる男子は反つて公費の衣食に飽き家に殘る細君は之が爲に饑渴に困死するを常とするなり故に此等の養育院は則ちかゝる婦人を入らせて其不幸を憫むものなり

不道德の養成を受けて亂暴に生長したる少年はたゞかの信實淸潔なる母の敎化を蒙りて初て改まるを得べし故に吾會員中よく母たるの德あるものはかの勸懲院中の少年を敎へて之が爲にその母たるの務を惠み玉ふべし

合衆黨は公に飲酒人に同盟し共和黨は密に之に連合せり故に南北諸州のうち吾會の主義に對し多少の助力を爲したるもの固より之ありと雖も十八州の議政官は禁酒法律改良の申出を悉く非難したり故に吾等は合衆黨の士を喃んで倒れんことを望み之が失敗の爲に全力を盡すべし然れども兩黨ともに倘ほ飲酒人の同盟なり故に吾等が相協力して此等の兩黨に反對せんと欲する所のものは即ちホワイトリッボンアーミー（白標の軍と譯す婦人禁酒會員は皆白標を附するがゆゑなり）なるのみ此黨は二個の老果てたる亂軍中より一の新黨を作るに足るべき勇士を集るものなり吾等が祈禱し吾等が希望し吾等が義相扶けんとする所のものは即ち此の一黨なり盖しいや舊き黨名はよく南北を一致せしめて戰場に進ますの號令にあらず今ま之に代りて社會改良の戰場に驅け出る一新軍を見よひらめく所の旗に記號あり云く酒商全廢せざる可らず云く唯だ飲酒の國禁を望むと此軍や盖しワシントン以來久しく分裂したる吾國民をしてよく一致せしむべし故に其の戰ふや相呼んで云はんワシントンに進めワシントンに進めと

あゝ古來の大戰爭は皆な其名を歷史上に殘せり今ま全世界の婦人列を整へて戰ふ所の此の大戰爭は盖しフレデリッキ三十年の戰よりも更に久しく斷へざるべし故に吾等は英國カナダ、サンドウイッチ、アウストラリア、アシア、及び其他の諸島に於て常に防國の戰爭と稱さるゝならん遮莫米國の大政事家は自由なる所に吾國ありと云へり吾等は今ま之に對すべき新確言をつくり吾等の白旗に酒軍進む所わが戰

塲ありと記して大凡そ此世に酒害あらん限り吾等全力を盡して勇進戰鬪せざる可らず

此れウイルラルド孃昨年の演説の大意なり以て米國婦人が社會の爲に盡力する活潑の模樣を推知し得べし本年はミンニアポリスに於て年會を開くべき定めなれば思ふに去十月には既に其集會ありしとならん吾人は遠からざる内に其報に接し更に當年中に於ける米國婦人の事業を示すを得べし

○理學一夕話

昔しアーキメデスと云へる名高き理學者あり王の冠をつくらせたる時用ひたる白銀の眞物なりや否やを檢査せんとして其方を得ずいろ／＼に考へ盡したる夜ふと浴みしけり然るに桶の湯多かりしにや躰を入るゝと共に湯水溢れて流れ出でたりアーキメデス忽然として悟るところあり快活にたへで衣も着くるを忘れユウレカユウレカ（發明したり發明したり）と叫び作ら裸躰にて市中を走りたり。これは理學上の發明の甚だ愉快なるを示す一つの例なれども凡そ其に理學を研究するものは何人と雖も常にかゝる樂あるものなり去れば或人は天文を測るの樂しさに悲して溝に陷るを忘れ或人は研究の面白さに婚姻の當夜花嫁の許に至るを失念したり又近代の大理學者ダルヰンは一生涯たゞ生物の研究に餘念なかりし人なるが其勉強は必竟理學の愉快至極なりしゆゑと云へり故に平素多病にして尋常人の健康にも及ばざりしを一日として其勉強を廢せしとなく死するの前數時間までも床の上にて草を目鏡にて照らし見たりとの傳あり

昔し我邦の人は尤も小さき者を罌粟粒の如しと云へり然れども今若し顯微鏡を以て之を照らせば此の小さき粒の内には倚ほ世界ひろしとして住居する數多の小き虫あるを見るべし然るに此の小さき虫は倚はそれ／＼の器械を具へて身躰を營養し躰内にはまた更に細微なるもろ／＼の道具を蓄めて此道具には更に緻密なる數多の仕組あるを見るべし故に今日顯微鏡を以て尤も細微なりと認むるものよりかの罌粟粒を見れば恰もこれ蟻が須彌山に於ける程の相違あるとあり。又吾等は昔し日本を以て天下第一の土地と心得支那大なりと雖も六十餘州に及ぶべくもあらずと思へり然るに今日萬國の地圖を開いて之を窺へば豈圖らんや日本と云へる帝國は尋常の輿地圖中には殆んど認めがたき程の小國なりと嘗けり然らば此全世界は何如ほどに大なるものなりやと云ふに此れ程のものは宇宙に倚懸しれざる程に運行せりと云へり抑て天を望めば晨星濱砂の如

く多し此等の星みな此世界の如く大なるものなりや然らば此程に多き數多の星を懸くる此の宇宙は果して何如程よ大なるものなりや吾等瞑目して大抵此程ならんと思へば其さきも亦宇宙あり然らば此程かと考へ直せば其先もまた宇宙あり荒漠として邊なき此大天地はなかく〳〵に望遠鏡もて窺ひ盡すべきにあらざるなり然れども此望遠鏡もて知り得たらん限りより吾世界を見ば此世界やたゞ須彌山上の罌粟粒なり况んやかの日本と云へる大帝國の如きはたゞかの罌粟粒中に住ふ小虫の一つよだも及ばざる者と見ゆべきなり

されば理學を知りたらん人の目には此世界の外に數多の世界あり此世の物品の外に數多の品物あり人は櫻花の爛熳たるを見てたゞ一時のながめとすべし然れども理學者の目には花の紅き黄き皆それ〴〵の理由あるを見て味言ふ可らず胡蝶の翩々として戯るゝを見れば玆に高尚なる妙工の存するを思ふて春窓の恨なんどなかく〳〵に起るべうもあらず一塊の石も之を細視すれば非常の理あり一握の土も之を分拆すれば莫大の道あり世間の事物一として愉快なる道理なきものあらずと思へば心中自ら爽快にして世上の富貴名譽など云へるものは無味淡泊なる死物のやう思はるゝとなり故に吾人は此後時々理學上にて尤も愉快とする道理の大略を談じて讀者と共に一個の新樂園に遊ぶの樂を受くべし

○いへのとも

答の部

○○十五の答　姙娠前后の心得方よつきては諸大家の高説を掲載せられたれば余は嬰兒の養に一日も忽諸にすべからさる最大要品たるかの乳汁のとに付世の産婦の注意を乞わんとす。分産後善無乳の分泌あれば差支なしと雖も時としては疾病に罹り乳の分泌なく或わ分泌するも病の爲に本母の乳を以て生兒を養難きとあり此際には乳母又は動物の乳にて養育せざるべからず而して乳母の良否を撿査するは最も大要件なるが故に其精密なる撿査は醫師に依頼すべきと固なり然れ共時としては乳を要するの急なるが爲よ醫師の撿査を受るの暇なきとあり此時は自家の撿査に依て乳母を鑑定せざるを得ず故に右止を得さるに方り乳母を擇ぶに於て注意すへき諸要件の大略を左に掲示す

●一乳母は本母と殆んど同年齡にして其分娩も亦略同時なるを良とす

(イ)乳母は強壯健康ならざるべからず勞瘵或は梅毒の如き病

の有無を密に撿査すへし顔面潔白にして常に咳嗽咯痰等ある者は撰ぶ可らす

(ロ)乳房は能く充満して之を按するに柔かにして乳頭は正しき形状を以て突出し毀傷なく且つ手を以て搾るときは充分の乳汁排泄するを要す又乳汁の善悪を知るに最も簡便の試験は其乳を哺する後ち其児平常の如きか或は吐乳するかに注意するにあり凡そ乳汁の佳良なる者は容易に消化せらるゝ者たり

(ハ)乳母の性質は素行正直を要す狡黠或は懶惰の者は不可なり

(ニ)産后月經已に再來せし婦人は乳母に用ふへからす然れとも乳母多くは月經の再來を秘する者あるが故に之を穿鑿するは本母の大任とす

(ホ)乳母には可及的滋養の食物を與ふへし然れども從來慣れざる者は假令滋養品たりとも與ふへからず(未完)(遠州掛川、中川孫三郎、答)

問之部

○三十　性質賢き余弟有之讀みたる書を直ちに覺へ候ども翌日は全く相忘れ候斯るを救る法は如何に候や(横須賀、清水常)

○州一　日本の古人のみ長壽なりしは何故か(盤城、角田よし)

論説

○女流の職分　博言學士　イーストレーキ

左の一篇は東京獨立新聞の編者イーストレーキ君より惠送ありたる論文を抄譯したるものなり

女子に政權を附與すべきや否やは久しく學者及び政論者の筆を煩したる問題となりて特に近年數歲の間は彼此の辨論一層に激烈となれり此に於て數多の論文を編し女子は其體力或は男子に劣るべし然れども智識上に就て之を云へば何の事に係るも皆な男子に均しきを得べしと主張すれば彼に於ては亦同樣の論著を作りて云ふ之を概するに女子は一國民たるの義務を盡すよりも寧ろ家族に必要なる事務を行ふとに於て遙によく適當したるものなりと」吾輩東方に於て之を見る如此き第二流の議論は則ち此地に於て一定の法則となれるものなり支那の女道を論述すと云へる某書中に有名の訓誡あり之に據れば家屋の四壁は女子の爲に境を畫するものなり女子畢生の職務は其内に在て其兩親と其夫とに從順するにあり其家族の事務を取扱ふと其兒子を教育するとに在るなり然るに何更に奇しむべきは支那の學者或は女子讀書す可らずと云ふあり蓋し女たらんもの既に妻となりては只だ夫の意志にのみ随ふべし

とするなり故に家事を治めて尤も勉勞し尤も節儉し尤も倦まざるを以て婦德の上乘とはなせり。又印度に於ては内房に外事を入るゝことを甚しく嫌惡す其趣は恰も家風嚴なる支那家族中の閨房に似たり玆には最も近き親族の外は敢て外人の立入るを許さず故に内房にある女子も亦た敢て戶外に出るを望まず啻に望まざるに非ず到底外出することを能せざる也。日本人は昔し何事に關らず支那の制度を尊敬したるが上に右二國民の行爲は更に其範例となりて此邦人の心を支配したり故に此支配を破り得べきものはたゞ西洋の文明を更に深く尊敬するの一事あるのみならむ日本に於ては今日と雖も夫妻同伴し或は共に車馬を馳るが如きを見るは尙非常の事なり階級いよく低き民種に至れば男女間の區別は尙更に著しくなりて夫の世界は婦の世界を離るゝこと遙に遠し之を以て婦は夫の心友にあらず又その助手にあらず只だ之に隨ふのみなりとは上下推なべての規則となれり此故に敎授外山君が其近著に於て主張ありたるが如く孔敎は如此く世を卑しむの故を以て吾等が大に擯斥すべきものなるべし然れども此敎に反對する事物の何如なるものあるに拘らず彼の大聖人(孔子)の道は日本の社會に於て尙ほ過分の權力を有するなり

孔子曰く男は天に代りて万事を宰し女はたゞ從順して男子の命を行ふものなり故に女は自ら何事をも決する能はず且つ三從の義ありて必らず之を守らざる可らず未だ嫁せざれば其父と兄とに從ひ既に嫁すれば夫に從ひ夫死すれば其子に從ふべし、又女は再婚を望む可らず、號令決して閨房より出づべからず、女の務は只だ食と酒とを調理供御するにあり、室外の事は善惡ともに知らざるを可とす、殊に會して國境を越ゆ可らず、一身の念を以ては一步も步む可らず、自己の考を以ては何事をも決す可らずと實に女子を輕んずるの敎と云ふべし然れども支那の婦人は皆限なく此敎を遵奉すと思ふ可らず今や南部の諸州には婦人の結黨ありて多くは娘孃にして皆共に獨立の運動を爲さんとて同盟し相約して人と婚せざらんとすこれ嫁して永久閨房に抑へらるゝの不運を避んが爲めなり或る時は此同盟廣東廣西に甚しく流行したるが故に政府は遂に之を禁ずるに至りたり。又印度の婦人は支那の婦人に比して少しく多く自由なるが如しと雖も近年亦同樣の反動を起すに至れり夫死して之を火くとき寡婦も共に殉して身を焚くと云るかの恐るべきサッテー(殉火)の禮は今殆んど斷えて其他女を困しめたる數多の惡風も亦之と共に消滅したり特に過る十年十五

年前來印度の女は數種の方途に向つて其智能の證を示し或は歐洲に有名なる諸大學に醫學士の學位を領し或は詩人論者たるに適せる其才力若くは才能を現し或は法庭に其名を得或は社會改良者として又其名を揚たり今や文明の大手は迷信、無智、守舊、等の巣網を破り去らんとす此時に當り昔年の酷教を亞細亞の婦人に守行せしめんと欲するは抑も亦た難しと云ふべき也

西洋には特に英蘭及び合衆國を初として其の著名なる新聞雜誌上に於て近來屡ば女子同等の問題を議論し婦人自らその論列に入りたり而して此等の婦人は女はたとひ他の點に於て男子に劣るとありとするも其文壇の高位を占るに適するとにつきては能く自ら十分に證明したり故に吾等は此事を尤も深く疑ふ所の人に對するも倘ほかのマダム、デー、スタイル。ゼナヂ、エリナツト。エリサベス、パルレツト、ブローニング（三夫人共に有名の文人あり）等の文章を指示するに及ばず（至る所に其證數多あるべき也）歐洲には名聲富貴兼ね得たる女流の文人六百人あり合衆國には比例上更に多くの女流あるあり然れども近日此事に關して復大なる議論を起したる者はかのナウイダと云へる婦人なり夫人は小說家たる不厭應の運筆を以て女が男子よりも更に無頓着に、更に不正直に、更に暴虐に倘更に不道德あるとを強く主張し女子に政權を公許せば世に必ず亂暴と不幸とを伴ひ來るべしと云へり斯して手套を投下したれば女流中の反對論者は競ふて之を取上げ（戰の挑みに應じて）答論したり其一例として次に揭ぐるはリパーモア夫人がノース、アメリカン、レビウ雜誌に寄せたる者の抄畧にして篇中には日本の讀者に新奇なる事實の數多あるあり

英米に於ける女子參政論の結果は多年前すでに此世界に現れたり即ち今を距る十五年前英蘭には男子と同樣にして獨婦にも亦た府務投票の權を與へたり爾來之が爲に大なる良果あり特に學校の管理貧民の救恤等に關しては更に大なる成功を見たれば去年蘇格蘭に於ても亦た同樣の權を女子に附與するとなれり又千八百八十年にはアイルチフマンの女子に限り價二十弗の土地を一ヶ年間所有したるものには國會議員投票の權を附與せられたり然るに千八百八十一年に至り此等の婦人が始て投票を行ひたる時該地方の新聞紙は論じて云く政事上の此新分子は尤も驚くべき樣に於て運動せりと又カナダの諸州に於ては未婚の女子に府務投票權を與へたるに彼等は堅固相當の精神を以てよく其財產を使

用したりと云へり又スウエーデンにては府吏を撰擧するの權を女子にも同權に附與し尙且つ上議員を撰擧すべき上等委員を撰擧するの權をも之に附與したるに女子のよく適任せることを認めたりアウストリアも亦た之と同じく千八百六十五年の布達より凡そ女子にして府、州、國等に關する公の撰擧に參せんと欲せバ撰擧場に己の代となるべき男子の朋友を出して其意見を投票するを得べしとありたり又羅士亞は數百年來すでに府吏及び州吏を撰擧すべき投票權を女子に附與したり

合衆國に於ける女子參政論の運動は數に於ても又德に於ても既に尤も大なる地位に達したるが上に現今尙ほ未曾有の速力を以て進行す彼のワイヲミング領の如きは千八百六十九年に於て既に女子に十分の參政權を附與したり其後十年の末に至りハーバード大學の卒業生キングマン足下及び該地高等法院に四年勤續したる判官某ハ共にボストンヘラルドに投書して云く吾領内の高等なる婦人は適當に且獨立して投票したり又此人等は黨派上の僻見に依て盲せず社會上の感化に依て迷ハされざりき要するに女子參政の事は社會の風地を高し優等の男子を撰擧するに効ありたりと(未完)

●佳傳

○ジヨセフヒン、バツトレル夫人

英國と大陸諸國とに於ける彼の尤も嫌惡すべき黴毒撿查條例に反對して廿年間一日の如く筆に口に辨論して止まず遂に當



年之を全廢するの幸を英國に現ぜしめたるは主としてバットレル夫人の力なり抑も英國に於て此條例を見るは恰も我日本國に於て娼妓の公許を見ると同權の關係ありて苟しくも眞正の德義を知り且つ眞正に女流の爲に慷慨する者は之を見て安ん

ぞ黙視すべけん夫人が廿年前初て此論を主張したる時は世人多くは之を嘲りたり然るに今や大英國の議員は全員総躰の賛成を以て之が廢滅に同意し女皇陛下も亦直ちに之を認許ありたり現今我國の妓楼を全廢し我國の娼妓を救済し我國の道徳をして大に改變せしめんと欲する者は夫人が英國に於て遭遇せる困難は固より甘んじて之を肯めざる可らず而て他日英國に於ける當年の幸を見るは實に確信して疑ふ可らざる也英國ポールモールバジエット新聞に有名なるかのステッド氏は近日夫人の傳紀を編さるゝと聞けば吾人は他日細密にその傳を叙するを待べし茲には前號フランセス嬢の演説中に同夫人の事を賞揚ありたるの縁に因りたゞ其肖像を掲ると云ふ

○松陰佳人傳　（第五回）

小勝は泣沈みたる顔を振上げ毅然として訴るやう郎は多年勤王正義に御志を傾けて幕府の暴逆を見れば腸をさくやう思はるゝとまで仰ありし御心を今日一日に何とて斯く變改し玉ふや事の善悪を問はず一旦取りたる主義を改め昨日の友を今日の敵とするは尋常の丈夫も尚ほ爲すを愧づると承はり候を况してや當今　皇威委微し志士の尤も慷慨すべき折と存ぜられ候とき卑くもかく御心を曲げて汚はしき御行あらんとはそもや何如なる御變心ぞや郎もし從來の非をさとり玉はゞ何とて身を退き世を隱れて時の遷るを待ち玉はざるさらで權威に驕り民をないがしろにする人を頼み一身の榮利を謀り玉はんとは日來の御氣象とは思ひ侍らず亡父君侯の命を受て京地に出でたるは郎が國の爲に盡しある御心と同じかれは父不幸に落命せし后も遺志を果して玉はらんは郎の外にあらじと思ひたるぞ口惜しき限に候大原さまとやらも兼てより勤王無二の御方と承はり候を。ヤー女に似氣なき雜言雜辨聞くべき耳は持たず誰かある此女は狂氣したりと見へたり早く退出せと云ふ新太郎の命に家奴ども二三人走り來り言ひ爭ひ泣き叫ぶを容謝もなく引立て乍ら追やりぬ

昔し周公をして流言の日に死せしめ王莽をして士に下るの年に逝かしめば一生の是非たれ在て知らん新太郎は家に歸りて狂暴放言し衛生を退出して強飲放吟したるが紀州の使者中嶋安藝の來訪ときゝ慴て謹みて來迎しむさくるしけれども先づく此へ、左様恐まりました、早速伺候仕るべしなど昨日の松崎外史よは見る可らざる調子あり斯て明日は侶人數多引倶して笑ふ人泣く人を後に殘し行列見よがしと公行して大坂なる紀州屋舗へは着しぬ


月耕

●寄書

○粧飾の弊を戒しむ

横濱　船越鼎太郎

進化論者たるの眼を以て廣く生物社會を通覽すれバ蛺蝶の類にありては其織翅の文彩艶美なるもの飛禽の類にありてハ其冠毛翼尾の壯麗華美なるもの多くは其雌にあらずして雄にあり之れ雄の初め美麗なる裝飾を用ひて雌の歡心を買ひ其の情慾を遂げたるの方便數万年間に進化して終に今日の現狀を成し得たるものなるべし又此の原理に由て草昧の人種を觀るに其身躰を專ら裝飾するものは婦人よりはかへつて男子に多し(本邦にても上古は男子のみ結髮して櫛、玉簪などを飾りたりと云ふ尤も神功皇后の結髮せられたるハ御征討の時男子に擬裝せられしを書きたるものと知るべし)然れども世稍や開け人智少しく進むに隨て女子は唯男子の外貌のみに因て結緣を決せず己の生涯を托するに賴もしきものを選んで夫となさんとするの念を起し男子も亦た好偶を獲るには只管ら外貌を飾るよりハ寧ろ知識を博め技藝を練ることこそ大切なれと覺り來たりぬべし然れども開化の進度猶低き程の間ハ男子は婦人を輕じ其妻を裝飾物視して壯觀の具とするは惟れ家の榮るなりなどゝ勝手氣儘の理屈を唱へ毫も婦人の意見を容れざるの風習あり去れば賢き婦人も無用の長物となる道理なれば男子は外貌の婀娜たる婦人のみを選み情慾を放にするを以て足れりとす故に婦人は知識を磨き技藝を練るよりは外貌を粧ふを以て大切なる手段となせり斯く男子の心鄙劣なる世には賢き女子も路頭に迷ひ氏なき婦人も玉輿に乘るの禍福顚倒もあるなるべし然れども世の益々進歩して婦人の知識技藝も彌々上達し男子に於ても亦た婦人の意見を容るゝこと必要なりと認めたらんには外貌よりは知識技藝の優れたる婦人を慕ふ風盛んに行はれ裝飾のことは漸く衰ふるに至るべき道理なり是を以て考ふるに人智の幼稚なる間は男女の選擇法專ら裝飾を先として才智を後にするが如し故に濫りに裝飾を事とするものは未開時代の卑劣手段を以て人を迷はし人を欺くものと心得べく又裝飾の美麗なる人を見る時は未開時代の卑劣手段を以て己れを迷よはし己れを欺かんとする人なりと用心するも決して不可なきなり

近來本邦の婦人ハ漸く男子の壓制を脫し其位置を進めんとするの傾向を來たし與論大ゝ動いて學者も皆之れに注目することゝなれり是を以て學に就く所の女子も彌々增加し又志ある婦人は慈善或は學術等を旨とし數人相集合して有益のことを計り彌々知識を博め技藝を練り益々婦人の地位を高めんとするは吾人の喜悅に堪へざる所也凡そ就學の女生徒には監督者あると課業に忙しきと思慮の卑しからざるとを以て徒らに脩飾に耽けり人の頭髮服裝杯を批評するを以て自ら任ずるの弊は必ずなかるべし又慈善學術等を主意とし集會せらるゝの婦人も亦其尤も高尙にして本邦女流社會の進步改良を計らるゝ人々なれハ集會の當日には早朝より一方ならぬ支度に手間どり頭飾服裝のみに心を配り大切なる集會の主意は凡て打ち忘れ之れに思想を廻らせしこともなく惟今日を晴れと着飾るを旨とし會場ゐ出づるも己の意見を陳述することなどは思ひもよらず人の精神をこらしたる意見も馬耳東風に聞き流し惟注意を怠らさるは己れの頭飾と襟元とに止まり數々手を上げて頭

飾を直し襟をつくろひなどし之れにて一場の集會を濟まし會場を退き歸宅したる後も會員の意見及び會場の景况等をば人に語ることなく唯會友の頭髮服裝容貌等のみを評するが如き鄙劣なるものは現今上流社會にはよもや一人もあらざるべしとは思はるれども社會の廣き萬一か〻る婦人のなしとは云ひ難し若しありとせばこれ女流社會の進歩を妨ぐるの仇敵と云ふも不可なきなり

夫れ高尙の志想を抱き學識あるの婦人は富貴の人のみに限るものにあらず父母は僅かに公債證書の利子に糊口を凌ぎながらも愛娘に勸學をなさしめ或は父兄の薄給より學資を得て遊學をなし或は叔父叔母の勝手元に働きて月俸を節し寸暇の間に螢雪の功を積むなど志想高く學識博く吾人の稱揚すべき婦人實に世間に少しとせず又志想高き婦人は眞人の資產を擇ばずして其人爲（ひとゝなり）を選むもの多ければ后來賴もしき人なりと思はゝ或は一貧士に嫁するも亦少なしとせず去れば女學校なりとも婦人の集會所なりとも若し奢侈虛飾の風盛に行なはれ學識博からず思想の高からざるを羞づる事なくかへつて某婦人の動作方正思慮卓越なるを慕はずして某貴孃の數々衣服を變換するの有樣を羨むが如き惡弊を來たさば女學校にまれ集會所にまれ決して善良なる結果を得らるべきものにあらず古來本邦の婦人は深窓の下に生長し萬事内氣なれば道理ある意見を表示することなく頓着せずも宜かるべき他人の誹謗なども之れを聞き流す事能はず故に偶々某婦人は常に衣服を變換することなしとか又は結髮の風笑ふ可しとか言はるゝ時は縱令誹謗するもの〻思慮淺く鄙劣なるものかなと心中には思へども己れの意見を衆人に述べて其朋友等の惡弊を矯正せんとするもの少なくかへつて其嘲笑を恐れ新衣を調製し虛飾品を購ふか又は學校を退き或は集會に欠席して之れを避くるか如き拙劣なる手段を行ふ者多し奢侈虛飾は豈女學校の目的ならんや集會所の主意ならんや夫れ奢侈虛飾は富人の之れを爲すも賢者の惡みを免れず況んや富有ならざる人にして之れをなすは少こしく理を知る人の見て快よしとせざる所なり余は今實に女學校及び婦人集會所を監督せらるゝ所の人に望むなり花美淫奔の虛飾を陋（いやし）み端正質朴の衣服を稱し徒らに他人の衣服裝飾を批評するの弊風を矯正せんとする如き氣風を其生徒或は會員に起さしめまた就學の生徒及び會場に臨まるゝ婦人は從來婦女子の花見遊山劇場等に趣くと同一の感情を以てする事なく寬大にして高尙なる思想を抱き服裝の誹譏は敢て意とそるに足らず專ら其目的とする所其主意とする所を重んじ他日本邦女風の大龜鑑となる事を切望す蓋し錦繡に包める炭團は襤褸に包める寶玉に如かざるなり

○宗敎眞假論

小石川小日向台町
長榮女塾第二級生　伊岐定子

當今基督敎を以て女道とそべしとの議論あるに際し切要の問題なりと認るが故に敢て之を揭ぐ（編者、白）

凡そ世間の事物に眞あれば必ず之れに伴ふの假あるは社會に於て免るべからざるの通患なりされど若此の眞假をして一目の下瞭然箇別し易からしむれば則假も亦た憂るに足らずと雖多くは眞假混合して辨知し易からさるが故に世人をして正否を判定するに苦しましむるもの勝けて數ふ可からず紫の朱

を奪ひ鄭聲之雅頌を亂たし莠草の秧苗を亂るの警蓋し一二にして止まさるべし宗敎も亦然り釋氏天堂冥府を說けは基督も亦樂園地獄を論し儒敎天人兩倫を貴へは基督神の十誡を重んす而して各々氷炭相容れざるものあつて以て世人をして彼是適從に惑はしむ然れども已に氷炭相容れざる以上は其間必す眞なるものあり而又假なるもの無かる可からざるなり夫れ然り世人をして此の眞假二者の別を容易に知らしむるの法則ハ經驗法に因らざるべからす譬へハ玆に二個の時辰器あり一個は純金を以て製し一個は鍍金を以て製せしものありとせんに二者各製造の始に當つてハ光輝赫灼として其眞假を辨知し易からさるべし然れとも年月を經過するに從つて眞なるものは益光輝を放ち假なるものは漸時鍍金脫落して其の本性を表はすに至るべし之れを實用するの年月は則ち時辰の眞假を判別するの經驗法なりと云ふべし又玆に兩個の人あり容儀秀端にして談論共に高尙なり而て其の志操の眞假未た知を得ずと雖退ひて平素の品行を顧るときは又以て正否を箭別し得べきなり此の經驗の法則ハ如何なる執拗論者と雖も亦た其跡を掩ふ能はず蓋し論より證據の俚諺此に於て平妙なりと云ふべし妾試に此の法則を假て以て宗敎の眞假に論及せんとす　（未完）

○題小宰相局入水圖　　但馬豐岡　香雪女史

孤舟一夜恨如絲。魂向西天万里涯。水鳥聲寒梁檣寂。
朦朧殘月鎖蛾眉。

●寄書　前號の外。長榮女塾大高阪竹子の文、齋藤新助氏の小野小町の話、横須賀脊水常子の問、大分臼杵かなふ三保子の文等。正に落手仕候

●新報

○ノルマントン事件に對する婦人の感想　去月廿四日午后六七時の頃紀州大島の沖に於て暗礁に乘り掛け風雨暴れしきる間に見る〳〵沈沒したる彼の英船ノルマントン號には乘組員三十九名邦人の乘客二十五名ありたり然るに沈沒の際取下したる端舟三艘に打乘りて生命を助かりたるは乘組員の中二十六名の歐洲人と平素尤も親密なりたらんと思はるゝ支那ボーイ一名にて印度火夫十二人及日本の乘客二十五人は悉く紀海の泡沫とはなれり此災の餘りに東洋人よのみ不幸なりしとの不思儀なるに神戸なる英國領事裁判所は船長及乘組員の申立を悉く是認して此過を全く罪なき者と判定したり此に於て吾國民中往々粗暴過激と見ゆる程に慷慨する者もあれど中に就き東京五大新聞の發起として此不幸なる日本乘客の遺族の爲に義捐金を募集ありたるは眞に懇にして且穩なる取扱と云べし外國にて斯る慈善の擧行はるゝとあれば先第一に其事を贊成して應分の義捐を爲すは婦人なりと聞及たるが我國にも近來此美風起り曩に長崎事件ありし時は日下知事の令室を初として有志の貴婦人方より數多の慰藉を負傷者よ送り玉へることなどあり吾人は斯道の爲に慶賀して措く能はざりしが

此度ノルマントン事件に對しては亦た一層斯る感想の吾女流に強くあれるは實に感謝すべきとあり

彼五大新聞にて義捐金を募集すと廣告ありたる後第一に義捐に應ぜられたる方々廿九名の御內には伊藤伯爵夫人を初として貴婦人凡そ十三方あり爾來今日(廿二日)に至る迄には日々の寄附者中夫人、娘孃、家內、下女、等の名を以て義捐さるゝ女流大抵三が一に居れり其が中にも愛宕下東京病院の看護婦並に看護女生徒廿七名より金三圓、松香館の女生徒十六名より二圓五十錢、明治女學校生徒中より九圓五十錢、青山小學女生徒並に裁縫專門生より金若干、を送られたり、又駿臺英和女學校にて去廿日に死者廿五名の追悼會を開き同時に金若干を集めて同樣に寄附ありたるなど皆な特に目立ちて喜ばしき報なり又之と併せ記さんは少しく嫌あるやの思あれども彼の烏森日吉町金春金六町などに住ふ女及び茶屋女十數名より金三十餘圓を寄附したる併て當今の氣風を見るべし要するに我國の女流が斯る公の慈善に立入て世の不幸を分つの運となりたるはくれ〴〵も斯道の爲め慶賀すべきとあり

因に云ふノルマントン號船長ドレーキ氏の處置は之を非難するが中にも亦た憫むべきものあり神戸裁判所の處置は尤も此を不平とすべき中にも既に之を破毀すべき第二の裁判ありたれば亦別に怨むべきなし但だ何如にも不幸と云ふべきはかの沈沒したる廿五名の同胞なれば斯る事のあるとなきとに係らず吾女流は幾重にも彼の義捐の事に盡力あるべき筈なり

○婦人慈善會　にては伊藤伯爵夫人を始め百餘名より前頃に揭ぐるノルマントン號溺死人の遺族へ扶助金を贈るとにて去廿日は同伯爵夫人の邸へ井上、大山、松方、谷、其他十一名の貴夫人方集會し種々の相談ありたる由

○女官の洋服　宮內省の女官方は追々西洋服を着用する事となり既に夫々注文せられしよし又先日飯田町の博愛病院へ皇后宮のならせられし時供奉の女官達は大抵洋服を着せられまた・皇后宮にも洋服を御着し遊されしよしにきく

○束髮の約束　海軍各軍醫の夫人一同の設立したる愛生社員は以來日本風の髮を結ぶ事を廢して束髮に限る事に約束を定められしと云ふ

○束髮の景況　本年春頃には一時衰退せし束髮も近頃は又非常に流行し山の手小川町本鄉邊にては中等以上の婦女子幷に學校女生徒は過半束髮にて近頃は藝娼妓の如き下等の婦女に

は束髪を用るもの殆んど無き樣なれども上等社會の婦人方にハ束髪を用る者昨年ニ比すれば三層倍も多き由にて昨年は寒冷に趣くに從て段々束髪も減じたれども今年は之に反して近頃に至り追々增加したれば今度ハ昨年の樣に容易ニ衰退することハ無る可し現に昨年迄ハ束髪を御用なかりし高貴の方々も近頃ハ悉く束髪にて恐れ多き事なれども過日　皇后の宮の茸狩に御幸遊ばされし折や又去る一日吹上御苑にてチヤリ子の曲馬を御覽遊ばされし折などに拜し奉るに　皇后の宮始め女官方悉く束髪洋服にて又去三日鹿鳴館の夜會に會せられたる婦人方百三四十名ハ悉く束髪にて中に和髷和服を着したるハ市來某の婦人一名のみなりしと又去る八日觀菊の御宴の節參會せられたる五六十名の御婦人方も悉く束髪洋服にて和髷緋袴の婦人ハ唯一名のみなりしと又過日海軍の軍醫某氏の洋行を見送られたる全部の夫人方ハ悉皆束髪にてありしが如此府下上流社會の婦人方ニ束髪の行なはるゝのみならず田舎にても大に流行する由にて去る三日茨木縣公園地櫻山にて催したる全縣の師範學校中學校醫學校其他諸學校生徒の大運動會にハ安田全縣令が總裁にして師範學校中學校醫學校女學校等の中等以上の男女一千九百餘名にて女學校生徒ハ不殘束髪にして非常の盛會ありしと全地よりの報に見へたりしが其他各地方より續々報ずる所を見るに近頃大に各地にて束髪の行はるゝ由あるが蓋し人智の進むに從て鍋蓋然たる圓髷や蝦蟇然たる島田髷を喜こぶもの減ずるハ眞に當然のことにて數年を出ずして島田圓髷ハ其の先祖たる娼妓髷（島田髷ハ島田宿の娼妓より始まり圓髷ハ勝山娼妓より始りたるなりと云ふ）とあるか左なければ古器物博覽會にても出る樣になるハ蓋し遠きに非ざることならんと或る束髪熱心の方より投書ありたり

○女職工の保護　印刷局の諸職工ハ此節短日の爲め出るにも歸へるにも薄暗き路を行くことなるが別けて女工杯ハ通路に於て惡漢どもにいたづらをされるも計れねば一川同局長より警視廳へ右保護の儀を依頼されしといふと十九日の改進新聞に見ゆ

○女學校　高等女學校にてハ來年一月より横濱山手共立女學校の卒業生鈴木しん娘を教員に委賴の約調ひたる由。六番町の櫻井女學校にてハ去十八日に同學校設立の紀念を兼ね幼兒寄宿舍の落成を祝されたる由同時ノックス夫人が演說ありたる勸話は尤も聽衆を動せし由其筆記ハ吾人に惠送ありし故後號に譯載すべし。去十三日は華族女學校開設の一周年期日に

つき課業を休み午前九時職員及生徒參集同時三十分式場に整列して御寫眞を拜し續きて學監は開校の令旨を朗讀し幷びに其儀を演說し了りて一同退散ありたる趣十一月十六日の官報に見ゆ。

○又同校の學監下田歌子は奏任二等に叙し教授兼幹事色川國士氏は奏任四等に叙し(年俸千圓下賜)幹事兼教授工藤一記、教授佐野安、同秋山四郎の三氏は奏任六等に叙し津田梅子は同校教授に任し奏任六等に叙し年俸五百圓下賜の旨何れも去廿日宮內省にて仰せ渡されたり。　去る三日の朝野新聞に云ふ

近來某貴顯の計畫により駿台邊に私立女子大學を設立せんとの企だては追々華族方等の賛成を得て既に成就の運に至れりと

○金澤甲種醫學校　に於て先年より區內の產婆を集め產婆講習會と云ふを設けて產科の學術を授け居りしが此の程全く講習を畢りたるに付き去月廿五日產婆三十一名に習熟證書を授くる爲め其式を行ひたりと去十六日の時事新報に見ゆ

○仙台婦人談話會　は去る廿日同地公園の揖翠館に其會を開かれたるよし

○下野私立教育會　の常會に於て學務委員伊藤有隣氏は梅田書記官にかわりて女子教育の爲め女子高等師範學校を建設するの方法を會員に諮問されしよしに聞く

○宏璉會　安房國朝夷郡御原村角田とみ女史(千葉女子師範學校卒業安房郡北條小學校教員)外數名は此程見出しの如き會を設立されたり其目的は婦人の風俗を改良し社會の風潮と共に上進を謀るにありて其事業の第一は割烹、裁縫、禮節、理髮等の是非を辨じ且つ之を實施し其他名望篤厚の男子をば名譽會員とする等十餘箇條の規則を設け目下會員を募集中あるよし去廿日の教育報知に見ゆ

○大學入學志願者　帝國大學及高等中學へ入學を乞はるゝ女子は本誌第卅七號に掲げたる木村氏の兩娘を初としかの日本婦人纂論を編輯ありたる井上直女及び神戸の女學校を卒業ありたる香坂とら子(當今頌榮女學校の教師)同卒業生戸川小鹿子(當今明治女學校の教員)等にて尙ほ其外にも同樣の志望をいだかるゝ人數多ありときゝぬ

○大坂婦人懇親會　去月廿三日中の島自由亭に於て婦人懇親會を開くとのことなりしが右發起人は府下東區唐物町四丁目破多野花涯と云へる婦人にて當日は滋賀、京都、兵庫、岡山地方より官吏、豪商、紳士、新聞記者等の細君達凡六十名程出席するとのことあるが大坂各官衙にては高島中將、兒島控訴院

長の夫人も來會され又建野府知事の令閨にも頻りにこの擧を贊成ありし居らるゝが過日同知事養父病死され當時忌引中あるに付出席は厭應せられ當日は只參觀として臨場せらるゝのみ又當日は男子の席場へ臨むとを禁じ席上の周旋向は各〻召使はるゝ下婢を以て充てらるゝ都合ゑて席上揮毫演說等もあるよし大坂日報に見ゆ

○大坂裁縫場　南區育英小學校附屬の女子裁縫場は去る十五日より開業せられしよしに聞く

○製糸業傳習　廣嶋縣奴可郡ゑては大日本農會員の內藤正氏外數名の發起にて同郡森村に製糸傳習所を設け一期を三十日として十四歲より二十五歲迄の女子二十名づゝを募り專ら製糸の法を敎へ同地方の蠶業を擴張せんと頻りに計畫中ありとぞ(十一月十四日每日新聞)

○裁縫所　駿州富士郡平垣村の裁縫所は一昨年開設せられし者あるが爾來進步の速かにして今日に至りて既に三十餘名の生徒を見るに到る同所は森口某の建設にかゝるものなりと

○三軒屋紡績會社　大坂の同會社にては追〻事業の盛大に趣き工女の不足を告ぐるに到るを以て今度更に百餘名の工女を雇入るゝよし內外新報に見ゆ

○長岡女紅場　長岡女紅場は元と長岡士族が就產の爲めに設立したるものにて最初政府より資本として一萬五千圓を借受しも其後追々損を重ね僅かに五千圓を餘すばかりの有樣に立至りしより先頃同所表四の町の小林傳作氏へ內事を委托するとに決せしが今度其規則を改むるとに取極め委員十名を選擧したりと同地の新聞に見ゆ

○雲州松江近村の婦女子　同婦女子が農業の間を以て日〻稼ぐ處の仕事を聞くに秋鹿郡古志、古曾志より佐陀村近傍及び島根郡佐田村等の婦女子は藺席及び吳座を造り意宇郡津田村邊の婦女子は菅を植ゑて菅笠を製し島根郡南持田、坂本、福原各村の婦女子は春は山野に蕨蕗の類を採り秋は同樣雁皮(製紙材料)を剝ぎ同郡三講武村の婦女子は藤布を織る由右は近村の山々は勿論遠く伯州美作の山までも涉獵て藤蔓を伐採して持歸りて織出すものゝよし又た松江接近の各村の婦女子は概して荷賣を以て得る所の利益は莫大なる金高なるが婦女子同士の間に一種の競爭ありて男子も及ばざる所作ありとぞ逸食安坐父兄や夫の餘力ゑのみ依賴する都會の婦人は恥かしきことなりと雲陽新報に見ゆ

●本號には女學雜誌第四卷の目錄を添たり

廣告

女學書類取次

婦人地球週遊記（一冊）英國ブラッセー女著、內田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。

日本之意匠及情交（一冊）田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵稅六錢。

賢女脩身事蹟（三冊）今川肅君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵稅十二錢。

ひざもとの敎（一冊）近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵稅四錢。

いへのをしへ（一冊）松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵稅二錢。

日本婚姻の弊害（一冊）大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵稅四錢。

看病の心得（一冊）笹川純一君著。本誌第卅五號に批評す。定價三十錢。郵稅六錢。

演劇改良論私考（一冊）外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵稅四錢。

社會改良と耶蘇敎との關係　同前著。本誌第卅九號に批評す。定價廿五錢。郵稅六錢。

小兒健全示要（一冊）岩田文吉君著。本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵稅十錢。

女子必讀（一冊）進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵稅十錢。

朗蘭夫人傳（一冊）坪內雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵稅十錢。

日本婚姻法論畧　一冊）鈴木券太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵稅十錢

日本婦人論（一冊）井上直女編。本誌第卅號に批評あり。定價二十六錢。郵稅六錢。

（右取次賣捌）

東京本鄉弓町一丁目廿番地　**女學雜誌社**

船越鼎太郎君著

產婦小兒攝生法

（新著）一冊十八錢郵送稅四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を誤さゝるとを敎へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ると、出產の期日を知る法、妊娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲ませる間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版済發賣）　東京本鄉弓町一丁目　女學雜誌社

基督敎新聞

第百七十三號（十一月十七日發兌）

目次○眞理は自由を生ず、牧師の苦樂○敎報○論說。何故神が惡を造つたか、說敎演說の勢力は何の邊に在るやを論ず、○雜錄。秋夜の感○質問答辨○雜報及敎報○英文敎報○

（一冊二錢郵稅一錢每水曜日刊行）

東京々橋區瀧山町六番地　警醒社

トウケウインデペンデント

東京獨立新聞

（第四十三號）（每土曜日刊行）

LEADING ARTICLES:—A National Reveille: Social Responsibility; (Choshi-Inazure.)

DIE FRANCHISE IN JAPAN—I; THE VOYAGE OF THE KANRIN MARU—I;

SELECTED TRANSLATIONS:—An Unbiassed View of the Matter; English and Japan.

ON THE SHELL MOUNDS OF NAKAMURA:—By E. S. Uyeda.

THE STUDENT'S CORNER:—Foreign Rules of Etiquette, &c.

東京築地明石町二十番　東京獨立新聞社

速記叢書 **講談演說集第三冊**

第三冊に限り**價六錢**（尤十二月十日マデ）**半價**即ち**三錢**にて差上べし）

但**郵稅**ハ一部ニ付別に**一錢**を要す

ノルマントン號 船長の罪を鳴さんとせバ宜しく先ヅ證據蒐集に盡力すべし

東京法學校主幹 文學士 薩埵正邦君

眞正の改良 文學士 高田早苗君

ノルマントン號事件 法學士 大谷木備一郎君

發賣 東京通三丁目丸善 馬喰町石川治兵衛 ●本町瑞穗屋● ●神田巖々堂●

取次 東京本郷弓町壹丁目廿番地 **女學雜誌社**

改良新法 **言語速寫法** 自宅獨習生第七回**募集**

無束脩○學資一ヶ月三十錢○郵券二錢を投ぜバ規則書を呈す

傍聽速記講習會 東京牛込新小川町

本校ハ女子の教育を專とし是迄英漢數裁縫習字の五科を教授せしが今般規則を改正し本科別科を分ち更に左の二科を教授す其詳細ハ本校規則に詳なり

洋服裁縫科 洋服裁縫ハ方今衣服改良の說漸次盛なるに從ひ婦女子に必要の業なり故に其途に熟練の者を聘し一ヶ年にて卒業せしむ

國語學科 本科は從來和文科と稱して一種雜駁なる授式を用ふる爲に常に多數の年月を要す依て當舍ハ從來の式を廢し華族女學校の新式に傚ひて專ら法則を教ゆ

神田區駿河臺北甲賀町六番地 **敬愛學舍**

定價

一册。五錢 郵稅。一錢（但府内無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
廿册。九十錢 郵稅。廿錢（同前）
卅册。一圓卅錢郵稅。卅錢（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢 府外ハ十八錢
二ヶ月分同 三十錢 府外ハ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢 府外ハ五十四錢
半年分同 八十八錢 府外ハ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢 府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行（廿八字詰）一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 團々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新𢫥町 良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本郷區元富士町 盛春堂
同本郷區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 本局 東京本郷弓町壹丁目廿番地 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

驛遞局認可

に其道に熟練の者を聘し一兩年にて卒業せしむ

國語學科 本科は從來和文科と稱して一種雜駁ある授式を用ふる爲に常よ多數の年月を要す依て當舍ハ從來の式を廢し華族女學校の新式に倣ひて專ら法則を教ゆ

神田區駿河臺北甲賀町六番地 **敬愛學舍**

驛遞局認可

發行所 東京本鄕弓町壹丁目廿番地 本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

日に開化して世界人民の幸福今日の地位に至れると其力多くは理學の進歩に由ると云ふ。之を以て當今西洋人の理學を見ると敢て昔日の例にわらず或は理學奬勵の會を開き或は理學上の發明に賞金を附與し或は子弟の教育に理學の制度を多くし專ら理學を開進して世上の實益を擧るとを計畫するなり顧て我國當今の學風を見るに憂ふべきもの一にして足らず中に就て吾人が尤も慨歎する所の者は理學の光明未だ我國の文壇に發輝せざるの一事なり竊に惟るに昔し邦人唐制の開化に眩惑して專ら浮華の文物を好尚したるより學者率ね實際に用なき無形の事理を講究し當世に効なきを以てろの仙なるものとはしたり故に藤原に詩歌の花其色を深くし德川に文章の駘其香を流して文學の進歩は著しき程度に達したりと雖もかの實物を基として實益を慮る所云る理學なるものに至りては近く二三年前の日に至る迄で未だ其萌芽をだも此の日本に開かざりしなり。幸にして我政府は夙に大學に理學の教課を備へ數多の英才を之が爲に養成したるが故に今や其人々の世に對するの効驗少かゝ世人に知られて今日往々理學の重んずべきとを言ふものあるに至れり然れども今の文壇に將たる者は皆大抵未だ理學の味を實驗せざるものあり今の所云る有志者ある者は概ね皆未だ理學を知らざるの人也今の教育を受る所の學生と雖も其の私立學校にわらん者は理化學の一班をも承知せずして早く既に其名譽ある卒業證書を領するものあり勢ひ如此あるが故に理學の志想は未だ文壇に入席せず理學の光明は尙ほ文筆會談の間に發輝するを得ざるなり。吾人は西洋の人がいよ〳〵理學を重んじていよ〳〵理學の効德を收るを見顧みて當今我邦の學風如此く理學に淡泊なるを知り常に慨歎の思を禁ずる能はざる也

我邦人は數百年間の經歷に依りて既に文學に沈醉するの性質を得たり今や之をして理學の尊むべき所以を知らしむるは一の難事なり之をして理學の味を覺らせ大に之を利用せしむるは更に不容易の難事なりとす玆に於てか吾人は女子に理學を教授するとの今日特に必要なるを知る也。抑も理學は啻に男子のみの講究すべきものにわらず吾人が當今我邦に理學の志想なきを憂ふるものは啻に男子の上に於てのみ之を言ふにあらず女子の理學を知らざるは吾人の憂にして女子に理學を教授するの必要は何の時を問はず常に同きものあり然れども吾人は日本男子が特に文學に沈醉せる宿弊あるを知るが故に亦我國の女子に理學を學ばするとの必要あるを感じ現今我國に

理學を奬勵するの甚だ急務たるを知るが故に亦た當今の女子に理學を敎授するの甚だ切要なるとを信ずるものなり

凡そ女子の性文を好みて理を味はざるを常とす故に其の稍や敎育を受たる者の平常愛讀する所は歷史傳紀小說の類なり其自ら作る所の者は詩歌雅文稗史の類なり此に於てか平生の談話大抵如此き文事の區域を出るを稀とす若しそれ男女交際の道開けて彼此自由に相會談するとあらん歟女子が問ふ所の事は歷史傳紀の事實にして其好んで談ずる所の事は小說中の事情なるべし事此に至らば交際を重んずるの男子は勢ひ如此き文學を精知して會談に辱を蒙らざるの用意に時日を惜まざるに至らん故に男女の交際いよ〳〵開け會話の談緖多く浮華の文學に入りて男子の學風亦多く浮文に流るゝを常とす試に歐米交際社會の有樣を見るべし數多の學士は會話の用意に幾千の時間を損し女流の御相手に幾千の理學志想を減ずるや事情を知るものゝよく熟知する所ならん蓋し女子の目前には男子たるもの餘りに高尙の道理を談ぜざるを禮とす故に平素自ら研究する所の深理は之を口にすると稀にして而も浮文實なきの談話を女子の言ふが儘に應答す此應答にして明ならずんば則ち女子の爲に無學視さるゝものあり之を以て交際社會を重んぜざるスペンセルよして初て歷史傳紀の敎育を輕んずるを得べし尋常一般の男子は滔々としてこれ女流の談手たらんとを欲し理學講究の傍間を殺いでだも尙ほ文學の知識を得んとを望むもの也。故に吾人は我邦に理學を奬勵せんとを希圖するに當りて向後男女交際の道大に開けんとするの一事を慮り我姉妹をして歐米婦人が交際社會に於けるの行爲に似せしめざらんとを望み又我姉妹をして共に理學を好み共に理學を奬勵し以て我邦に理學の志想を充實するに大功あらしめんとを希ふ是れ當今の女子敎育に理學を多くするとを要する由緣の一なり（未完）

●叢話

○米國婦人の事業（其二）

米國婦人禁酒會の會頭フランセスウイルラルド孃が演説中尙ほ左の如き爽快なる報告あり

文書部は部長エスセルハウス夫人の撓みなき盡力により當年中に五万四千の報告を發し尙ほ宗敎及び農業に關する新聞雜誌七百余部を受取たり吾等は一層此事業を擴張し凡そ他の新聞雜誌中に本會の主義を汚がす如き文辭ある

ときは成べく其新聞雜誌中に於て之を駁し得るの都合を備へざる可らず蓋し毒は毒を入れたるの處よりしてたゞよく之を消すを得べし若しニウヨークトリビユン新聞に不都合なる議論ありたらんに之を吾がユニチン・シグナル中に辨駁すとも之を讀む所の人は即ち此辨駁を要せざるの人なるべし故に吾等は尙ほ一層手廣く諸新聞雜誌を取寄せ又た部長を補助すべき書記を雇ひ以て他の文書の暴論を駁滅せざる可らず。吾等は又此部に更に一人の書記を置き當冬中に諸所の所謂る大新聞雜誌社に書を送り當今言論の自由なるに任せて往々不德の言辭を其紙上に掲げらるゝ等の事なからんを切望すべし

法律部は部長ワルレース夫人書記ワルス夫人の盡力により大なる進歩を爲したり抑も禁酒の法律を制定し得らるゝの日は尙遙かに前途にありや之を知る可らずと雖も攪動者の王と呼ばるゝダニエルチーコンテル氏の言の如く吾等先づ最上の事を希望せざる可らず然らば則ち一二を收むるを得べし大凡そ改革の事を行はんには何人と雖も此の行爲を非難せざるべし吾等が法律部に於けるの盡力は實に之が爲めなり

インヂアナ州の婦人は亞片の害を防滅することゝ對し吾會の盡力あらんことを望み其一人ヘーブンス夫人は之が爲に其力を盡さんことを申出られたり又南部カリフホーニアの姉妹は煙草部の事業を一層擴張して尙ほ之を麻醉物部と改稱せんことを勸告ありたり吾等は既に若く之を改稱し且つヘーブンス婦人を此部の演說員としたり

吾國の各州に於ては出願者あるに隨ひ女牢及び女兒職業學校を建築せんとす故に吾會々員にして此事に熱心ある者は喜んで之が爲に盡力せんことを欲す

ノースフヒールドのクラーク夫人は酒毒の爲に無能となりたる人々を容るべき家屋を設けんと欲し之が爲に久しく盡力して今や政府の注意をも動かすに至れり抑も斯る無能者は適當の監督者ありて之を監督するのみならずんば全く無用の人となり其の家族と共に住するときは家族之が爲に大に困難するを常とす然るに今ま此類の人を容るべき養育院あるなし同夫人がその設立に盡力あるに對し諸君よろしく贊成あるべし

シカゴ府には本會員の盡力によりてマルタワシントンホームト云へる養育院を建設し尙ほウイリアムドッヂ夫人とニ

ウヨークの婦人方との盡力よより紐育府内に同様の院を設けたり何れも皆な酒害の爲に貧窮となりたる婦人を養育するの場所なり博士ラッシはその有名なる論文中に大酒者の財産は之を其妻に讓らしむべしと論じ玉へり然るに大酒者にして財產あるものは殆んど稀なり彼等一朝監獄に送らるゝときは酒に迷ひ罪を暴にしたる男子は反つて公費の衣食に飽き家に殘る細君は之が爲に饑渴に困死するを常とするあり故に此等の養育院は則ちかゝる婦人を入らせて其不幸を愍むものなり

不道德の養成を受けて亂暴に生長したる少年はたゞかの信實清潔なる母の敎化を蒙りて初て改まるを得べし故に吾會員中よく母たるの德あるものはかの勸懲院中の少年を敎へて之が爲にその母たるの務を惠み玉ふべし

合衆黨は公に飲酒人に同盟し共和黨は密に之に連合せり故に南北諸州のうち吾會の主義に對し多少の助力を爲したるもの固より之ありと雖も十八州の議政官は禁酒法律改良の申出を悉く非難したり故に吾等は合衆黨の士を噛んで倒れんことを望み之が失敗の爲に全力を盡すべし然れども兩黨ともに倚ほ飲酒人の同盟あり故よ吾等が相協力して此等の兩黨に反對せんと欲する所のものは即ホワイトリッボンアーミー（白標の軍と譯す婦人禁酒會員は皆白標を附するがゆゑなり）あるのみ此黨は二個の老朽てたる亂軍中より一の新黨を作るに足るべき勇士を集るものなり吾等が祈禱し吾等が希望し吾等が義相扶けんとする所のものは即ち此の一黨なり盖しいや舊き黨名はよく南北を一致せしめて戰場に進まするの號令にあらず今ま之に代りて社會改良の戰場に驅け出る一新軍を見よひらめく所の旗に記號あり云く酒商全廢せざる可らず云く唯だ飲酒の國禁を望むと此軍や盖しワシントン以來久しく分裂したる吾國民をしてよく一致せしむべし故よ其の戰ふや相叫んで云はんワシントンに進めワシントンに進めと

あゝ古來の大戰爭は皆な其名を歷史上に殘せり今ま全世界の婦人列を整へて戰ふ所の此の大戰爭は盖しフレデリッキ三十年の戰よりも更に久しく斷へざるべし故に吾等は英國の諸島に於て常に防國の戰爭と稱さるゝならん遮莫米國カナダ、サンドウイッチ、アウストラリア、アジア、及び其他の大政事家は自由なる所に吾國ありと云へり吾等は今ま之に對すべき新確言をつくり吾等の白旗に酒軍進む所わが戰

場ありと記して大凡そ此世に酒害あらん限り吾等全力を盡して勇進戰鬪せざる可らず

此れウイルラルド孃昨年の演説の大意なり以て米國婦人が社會の爲め盡力する活潑の摸様を推知し得べし本年ハミンニアポリスに於て年會を開くべき定めなれば思ふに去十月には既に其集會ありしとならん吾人は遠からざる内に其報に接し更に當年中に於ける米國婦人の事業を示すを得べし

○理學一夕話

昔しアーキメデスと云へる名高き理學者あり王の冠をつくらせたる時用ひたる白銀の眞物なりや否やを撿査せんとして其方を得ずいろ〳〵に考へ盡したる後ふと浴みしけり然るに桶の湯多かりしにや躰を入るゝと共に湯水溢れて流れ出でたりアーキメデス忽然として悟るところあり快喜にたへで衣を着くるを忘れユツレカユウレカ(發明したり發明したり)と叫び乍ら裸躰にて市中を走りたり。これは理學上の發明の甚だ愉快なることを示す一つの例なれども凡そ眞に理學を研窮するものハ何人と雖も常にかゝる樂あるものなり去れば或人は天文を測るの樂しさに歩して溝に陷るを忘れ或人は研窮の面白さに婚姻の當夜花嫁の許に至ることを失念したり又近代の大理學者ダルヰンは一生涯たゞ生物の研窮に餘念なかりし人なるが其勉強は必竟理學の愉快至極なりしゆえと云へり故に平素多病にして尋常人の健康にも及ばざりしを一日として其勉強を廢せしとなく死するの前數時間までも床の上にて草を目鏡にて照らし見たりとの傳あり

昔し我邦の人は尤も小き者を罌粟粒の如しと云へり然れども今若し顯微鏡を以て之を照らせば此の小さき粒の内には尙ほ世界ひろしとして住居する數多の小さき虫あるを見るべし然るに此の小さき虫は尙ほそれ〴〵の器械を具へて身躰を營養し躰内にはまた更に細微なるもろ〳〵の道具を藏めて此道具には更に細密なる數多の仕組あるを見るべし故に今日顯微鏡を以て尤も細微なりと認るものよりかの罌粟粒を見れば恰もこれ蟻が須彌山に於ける程の相違あるとなり。又吾等は昔し日本を以て天下第一の土地と心得支那天竺廣しと雖も六十餘州に及ぶべくもあらずと思へり然るに今日萬國の地圖を開いて之を窺へば豈圖らんや日本と云へる帝國は尋常の輿地圖中には殆んど認めがたき程の小國なりと歎けり然らバ此全世界ハ何如ほどに大なるものなりやと云ふに此れ程のものは宇宙に尙數しれざる程に運行せりと云へり仰で天を望めば晨星濱砂の如

く多し此等の星みな此世界の如く大なるものなりや然らば此程に多き數多の星を懸くる此の宇宙は果して何如程よ大なるものなりや吾等瞑目して大抵此程ならんと思へば其さきも亦宇宙あり然らば此程かと考へ直せば其先もまた宇宙あり荒漠として邊なき此大天地はなかく\に望遠鏡もて窺ひ盡すべきにあらざるなり然れども此望遠鏡もて知り得たらん限りより吾世界を見ば此世界やたゞ須彌山上の罌粟粒なり況んやかの日本と云へる大帝國の如きはたゞかの罌粟粒中に住ふ小虫の一つよだも及ばざる者と見ゆべきなり

されば理學を知りたらん人の目には此世界の外に數多の世界あり此世の物品の外に數多の品物あり人は櫻花の爛熳たるを見てたゞ一時のながめとすべし然れども理學者の目には花の紅き黄き皆それぐ\の理由あるを見て味言ふ可らず胡蝶の翩く々として戯るゝを見れば玆に高尚なる妙工の存するを思ふて春窓の恨みなんどなかく\に起るべうもあらず一塊の石も之を細視すれば非常の理あり一握の土も之を分拆すれば莫大の道あり世間の事物一として愉快なる道理なきものあらずと思へば心中自ら爽快にして世上の富貴名譽など云へるものは無味淡泊なる死物のやう思はるゝとなり故に吾人は此後時々理學上にて尤も愉快とする道理の大略を談じて讀者と共に一箇の新樂園に遊ぶの樂を受くべし

○いへのとも

答の部

○十五の答　姙娠前后の心得方よつきては諸大家の高説を掲載せられたれば余ハ嬰兒の養に一日も忽諸にすべからさる最大要品たるかの乳汁のとに付世の産婦の注意を乞ハんとす。分産後恙無乳の分泌あれば差支なしと雖も時としては疾病に罹り乳の分泌なく或ハ分泌するも病の爲に本母の乳を以て牛兒を養難きとあり此際には乳母又は動物の乳にて養育せざるべからず而して乳母の良否を撿査するは最も大要件なるが故に其精密なる撿査は醫師に依賴すべきと固なり然れ共時としては乳を要するの急なるが爲よ醫師の撿査を受るの暇なきとあり此時ハ自家の撿査に依て乳母を鑒定せざるを得ず故に右止を得さるに方り乳母を擇ぶに於て注意すへき諸要件の大略を左に掲示す

●一乳母は本母と殆んど同年齡にして其分娩も亦略同時なるを良とす

（イ）乳母は强壯健康ならざるべからず勞瘵或ハ梅毒の如き病

の有無を密に撿査すへし顔面蒼白にして常に咳嗽咯痰等ある者ハ撰ぶ可らす

（ロ）乳腺ハ能く充滿して之を按するに柔かにして乳頭ハ正しき形狀を以て突出し瘡傷なく且つ手を以て窄るときわ充分の乳汁排泄するを要す又乳汁の善惡を知るに最も簡便の試驗は其乳を哺する后ち其兒平常の如きか或は吐乳するかに注意するにあり凡そ乳汁の佳良なる者は容易に消化せらるゝ者たり

（ハ）乳母の性質ハ篤實正直を要す狡黠或は懶惰の者は不可なり

（ニ）産后月經已に再來せし婦人は乳母に用ふべからす然れとも乳母多くは月經の再來を秘する者あるが故に之を穿鑿するは本母の大任とす

（ホ）乳母には可及的滋養の食物を與ふへし然れど從來慣れざる者わ假令滋養品たりと雖も與ふへからす（未完）（遠州掛川、中川孫三郎、答）

問之部

○三十　性質賢き舍弟有之讀みたる書を直ちに覺へ候ども翌日は全く相忘れ候斯るを敎る法は如何に候や（横須賀、青水常）

○卅一　日本の古人のみ長壽なりしハ何故か（盤城、角田よし）

●論說

○女流の戰爭　博言學士　イーストレーキ

左の一篇は東京獨立新聞の編者イーストレーキ君より惠送ありたる論文を抄譯したるものなり

女子に政權を附與すべきや否やは久しく理學者及び政論者の筆を煩したる問題となりて特に近年數歲の間は彼此の辨論一層に激烈となれり此に於て數多の論文を編し女子は其躰力或は男子に劣るべし然れども智識上に就て之を云ハゞ何の事に係るも皆な男子に均しきを得べしと主張すれバ彼に於ては亦同樣の論著を作りて云ふ之を概するに女子は一國民たるの義務を盡すよりも寧ろ家族に必要なる事務を行ふとに於て遙によく適當したるものなりと」吾輩東方に於て之を見る如此き第二流の議論は則ち此地に於て一定の法則となれるものなり支那の女道を說盡すと云へる某書中に有名の訓誡あり之に據れば家屋の四壁は女子の爲に境を劃するものなり女子畢生の職務は此内に在て其兩親と其夫とに從順するにあり其家族の事務を取扱ふと其兒子を敎育するとに在るなり然るに尚更に奇しむべきは支那の學者或は女子讀書す可らずと云ふあり蓋し女たらんもの既に妻となりてハ只だ夫の意志にのみ隨ふべし

とするなり故に家事を治めて尤も勉勞し尤も節儉し尤も倦まざるを以て婦德の上乘とはなせり。又印度に於ては內房に外事を入るゝことを甚しく嫌惡す其趣は恰も家風嚴なる支那家族中の閨房に似たり玆には最も近き親族の外は敢て外人の立入るを許さず故に內房にあるの女子も亦た敢て戶外に出るを望まず啻に望まざるに非ず到底外出することを能せざる也。日本人は昔し何事に關らず支那の制度を尊敬したるが上に右二國民の行爲は更に其範例となりて此邦人の心を支配したり故に此支配を破り得べきものはたゞ西洋の文明を更に深く尊敬するの一事なるのみならむ日本に於ては今日と雖も夫妻同伴し或は共に車馬を馳るが如きを見るは倚非常の事なり階級いよく低き民種に至れば男女間の區別は倚更に著しくなりて夫の世界は婦の世界を離るゝこと遙に遠し之を以て婦は夫の心友にあらず又その助手にあらず只だ之に隨ふのみなりとは上下推なべての規則となれり此故に敎授外山君が其近著に於て主張ありたるが如く孔敎は如此く世を卑しむの故を以て吾等が大に擯斥すべきものなるべし然れども此敎に反對する事物の何如なるものあるに拘らず彼の大聖人(孔子)の道は日本の社會に於て倚ほ過分の權力を有するなり

孔子曰く男は天に代りて万事を宰し女はたゞ從順して男子の命を行ふものなり故に女は自ら何事をも決する能はず且つ三從の義ありて必らず之を守らざる可らず未だ嫁せざれば其父と兄とに從ひ既に嫁すれば夫に從ひ夫死すれば其子に從ふべし、又女は再婚を望む可らず、號令決して閨房より出づべからず、女の務は只だ食と酒とを調理供御するにあり、室外の事は善惡ともに知らざるを可とす、葬に會して國境を越ゆ可らず、一身の念を以ては一步も步む可らず、自己の考を以ては何事をも決す可らずと實に女子を輕んずるの敎と云ふべし然れども支那の婦人は皆限なく此敎を遵奉すと思ふ可らず今や南部の諸州には婦人の結黨あり多くは娘孃にして皆共に獨立の運動を爲さんことを同盟し相約して人と婚せざらんとすこれ嫁して永久閨房に抑へらるゝの不運を避んが爲めなり或る時は此同盟廣東廣西に甚しく流行したるが故に政府は遂に之を禁ずるに至りたり。又印度の婦人は支那の婦人に比して少しく多く自由なるが如しと雖も近年亦同樣の反動を起すに至れり夫死して之を火くとき寡婦も共に殉して身を焚くと云るかの恐るべきサッテー(殉火)の禮は今殆んど斷えて其他女を困しめたる數多の惡風も亦之と共に消滅したり特に過る十年十五

年前來印度の女は數種の方途に向つて其智能の證を示し或は歐洲に有名なる諸大學に醫學士の學位を領し或は詩人論者たるに適せる其才力若くは才能を現し或は法庭に其名を得或は社會改良者として又其名を揚たり今や文明の大手は迷信、無智、守舊、等の巢網を破り去らんとす此時に當り昔年の酷教を亞細亞の婦人に守行せしめんと欲するは抑も亦た難しと云ふべき也

西洋には特に英蘭及び合衆國を初めとして其の著名ある新聞雜誌上に於て近來屡ば女子同等の問題を議論し婦人自らその論列に入りたり而して此等の婦人は女はたとひ他の點に於て男子に劣るとありとするも其文壇の高位を占るに適するとにつきては能く自ら十分に證明したり故に吾等は此事を尤も深く疑ふ所の人に對するも倘ほかのマダム、デー、スタイル。ゼヲヂ、エリヲツト。エリサベス、バルレツト、ブローニング（三夫人共に有名の文人あり）等の文章を指示するに及ばず（至る所に其證數多あるべき也）歐洲には名聲富貴兼ね得たる女流の文人六百人あり合衆國には比例上更に多くの女流あるあり然れども近日此事に關して復大なる議論を起したる者はかのナウイダと云へる婦人なり夫人は小說家たる不厭應の運筆を以て女が男子よりも更に無頓着に、更に不正直に、更に暴虐に倘更に不道德あるとを強く主張し女子に政權を公許せば世に必ず亂暴と不幸とを伴ひ來るべしと云へり斯して手套を投下したれば女流中の反對論者は競ふて之を取上げ（戰の挑みに應じて）答論したり其一例として次に揭ぐるはパーモア夫人がノース、アメリカン、レビウ雜誌に寄せたる者の抄畧にして篇中には日本の讀者に新奇なる事實の數多あるあり

英米に於ける女子參政論の結果は多年前すでに此世界に現れたり即ち今を距る十五年前英蘭には男子と同樣にして獨婦にも亦た府務投票の權を與へたり爾來之が爲に大ある良果あり特に學校の管理貧民の救恤等に關しては更に大ある成功を見たれば去年蘇格蘭に於ても亦た同樣の權を女子に附與するとあれり又千八百八十年にはアイルヲフマンの女子に限り僅二十弗の土地を一ケ年間所有したるものには國會議員投票の權を附與せられたり然るに千八百八十一年に至り此等の婦人が始て投票を行ひたる時該地方の新聞紙は論じて云く政事上の此新分子は尤も驚くべき樣に於て運動せりと又カナダの諸州に於ては未婚の女子に府務投票權を與へたるに彼等は堅固相當の精神を以てよく其財產を使

用したりと云へり又スウェーデンにては府吏を撰擧するの權を女子にも同權に附與し尚且つ上議員を撰擧すべき上等委員を撰擧するの權をも之に附與したるに女子のよく適任せることを認めたりアウストリアも亦た之と同じく千八百六十五年の布達より凡そ女子にして府、州、國等に關する公の撰擧に參せんと欲せば撰擧塲に己の代となるべき男子の朋友を出して其意見を投票するを得べしとありたり又羅士亞は數百年來すでに府吏及び州吏を撰擧すべき投票權を女子に附與したり

合衆國に於ける女子參政論の運動は數に於ても又德に於ても既に尤も大なる地位に達したるが上に現今尚ほ未曾有の速力を以て進行す彼のワイヲミング領の如きは千八百六十九年に於て既に女子に十分の參政權を附與したり其後十年の末に至りハーバード大學の卒業生キングマン足下及び該地高等法院に四年勤續したる判官某は共にボストンヘラルドに投書して云く吾領内の高等なる婦人は適當且獨立して投票したり又此人等は黨派上の僻見に依て盲せず社會上の感化に依て迷はされざりき要するに女子參政の事は社會の風地を高し優等の男子を撰擧するに效ありたりと（未完）

●佳傳

○ジヨセフヒン、バットレル夫人

英國と太陸諸國とに於ける彼の尤も嫌惡すべき黴毒撿査條例に反對して廿年間一日の如く筆に口に辨論して止まず遂に當



年之を全廢するの幸を英國に現ぜしめたるは主としてバットレル夫人の力なり抑も英國に於て此條例を見るは恰も我日本國に於て娼妓の公許を見ると同權の關係あり苟しくも眞正の德義を知り且つ眞正に女流の爲に慷慨する者は之を見て安ん

ぞ默視すべけん夫人が廿年前初て此論を主張したる時は世人多くは之を嘲りたり然るに今や大英國の議員は全員總躰の賛成を以て之が廢滅に同意し女皇陛下も亦直ちに之を認許ありたり現今我國の妓樓を全廢し我國の娼妓を救濟し我國の道德をして大に改變せしめんと欲する者は夫人が英國に於て遭遇せる困難は固より甘んじて之を嘗めざる可らず而て他日英國に於ける當年の幸を見るは實に確信して疑ふ可らざる也英國ポールモールパジェット新聞に有名なるかのステッド氏は近日夫人の傳紀を編さるゝと聞けば吾人は他日細密にその傳を敍するを待べし茲には前號フランセス孃の演說中に同夫人の事を賞揚ありたるの終に因りたゞ其肖像を掲ると云ふ

○松濤佳人傳　（第五回）

小勝は泣沈みたる顏を振上げ毅として諫るやう郞は多年勤王正義に御志を傾けて幕府の暴逆を見れば腸をさくやう思はるゝとまで仰ありし御心を今日一日に何とて斯く變改し玉ふや事の善惡を問はず一旦取りたる主義を改め昨日の友を今日の敵とするは尋常の丈夫も尙ほ爲すを愧づると承はり候を況してや當今皇威委微し志士の尤も慷慨すべき折と存ぜられ候とき卑くもかく御心を曲げて汚はしき御行あらんとはそもや何如なる御變心ぞや郞もし從來の非をさとり玉はゞ何とて身を退き世を隱れて時の遷るを待ち玉はざるさらで權威に驕り民をないがしろにする人を賴み一身の榮利を謀り玉はんとは日來の御氣象とは思ひ侍らず亡父君侯の命を受て京地に出でたるは郞が國の爲に御盡しある御心と同じかれば父不幸に落命せし后も遺志を果して玉はらんは郞の外にあらじと思ひたるぞ口惜しき限に候大原さまとやらも兼てより勤王無二の御方と承はり候を、ヤー女に似氣なき雜言雜辨聞くべき耳は持たず誰かある此女は狂氣したりと見へたり早く追出せと云ふ新太郞の命に家奴ども二三人走り來り言ひ爭ひ泣き叫ぶを容謝もなく引立て乍ら追やりぬ

昔し周公をして流言の日に死せしめ王莽をして士に下るの年に逝かしめば一生の是非たれ在て知らん新太郞は家に歸りて狂暴放言し書生を追出して强飮放吟したるが紀州の使者中嶋安藝の來訪ときゝ惶て謹みて奉迎しむさくるしけれども先づく此へ、左様恐まりました、早速伺候仕るべしなど昨日の松濤外史には見る可らざる調子なり斯て明日は侶人數多引倶して笑ふ人泣く人を後に殘し行列見よがしと公行して大坂なる紀州屋舗へは着しぬ


月耕

年前來印度の女は數種の方途に向つて其智能の證を示し或は歐洲に有名なる諸大學に醫學士の學位を領し或は詩人論者たるに適せる其才力若くは才能を現し或は法庭に其名を得或は社會改良者として又其名を揚たり今や文明の大手は迷信、無智、守舊、等の巢網を破り去らんとす此時に當り昔年の酷教を亞細亞の婦人に守行せしめんと欲するは抑も亦た難しと云ふべき也

西洋には特に英國及び合衆國を初として其の著名ある新聞雜誌上に於て近來屢ば女子同等の問題を議論し婦人自らその論列に入りたり而して此等の婦人は女はたとひ他の點に於て男子に劣るとありとするも其文壇の高位を占るに適するとにつきては能く自ら十分に證明したり故に吾等は此事を尤も深く疑ふ所の人に對するも尙ほかのマダム、デー、スタイル。ゼチヂ、エリチット。エリサベス、バルレット、ブローニング(三夫人共に有名の文人あり)等の文章を指示するに及ばず(至る所に其證數多あるべき也)歐洲には名聲富貴兼ね得たる女流の文人六百人あり合衆國には比例上更に多くの女流あるあり然れども近日此事に關して復大なる議論を起したる者はかのチウイダと云へる婦人なり夫人は小說家たる不厭應の運筆を以て女が男子よりも更に無頓着に、更に不正直に、更に暴虐に尙更に不道德あるとを強く主張し女子に政權を公許せば世に必ず亂暴と不幸とを伴ひ來るべしと云へり斯して手套を投下したれば女流中の反對論者は競ふて之を取上げ(戰の挑みに應じて)答論したり其一例として次に揭ぐるはリパーモア夫人がノース、アメリカン、レビウ雜誌に寄せたる者の抄畧にして篇中には日本の讀者に新奇なる事實の數多あるあり

英米に於ける女子參政論の結果は多年前すでに此世界に現れたり即ち今を距る十五年前英國には男子と同樣にして獨婦にも亦た府務投票の權を與へたり爾來之が爲に大ある効果あり特に學校の管理貧民の救恤等に關しては更に大ある成功を見たれば去年蘇格蘭に於ても亦た同樣の權を女子に附與するとゝあれり又千八百八十年にはアイルチフマンの女子に限り價二十弗の土地を一ケ年間所有したるものには國會議員投票の權を附與せられたり然るに千八百八十一年に至り此等の婦人が始て投票を行ひたる時該地方の新聞紙は論じて云く政事上の此新分子は尤も驚くべき樣に於て運動せりと又カナダの諸州に於ては未婚の女子に府務投票權を與へたるに彼等は堅固相當の精神を以てよく其財產を使

用したりと云へり又スウェーデンにては府吏を撰擧するの權を女子にも同權に附與し尚且つ上議員を撰擧すべき上等委員を撰擧するの權をも之に附與したるに女子のよく適任せるを認めたりアウストリアも亦た之と同じく千八百六十五年の布達より凡そ女子にして府、州、國等に關する公の撰擧に參せんと欲せバ撰擧場に己の代となるべき男子の朋友を出して其意見を投票するを得べしとありたり又羅士亞は數百年來すでに府吏及び州吏を撰擧すべき投票權を女子に附與したり

合衆國に於ける女子參政論の運動は數に於ても又德に於ても既に尤も大なる地位に達したるが上に現今尚ほ未曾有の速力を以て進行す彼のワイチミング領の如きは千八百六十九年に於て既に女子に十分の參政權を附與したり其後十年の末に至りハーバード大學の卒業生キングマン足下及び該地高等法院に四年勤續したる判官某は共にボストンヘラルドに投書して云く吾領内の高等なる婦人は適當に且獨立して投票したり又此人等は黨派上の僻見に依て盲せず社會上の感化に依て迷はされざりき要するに女子參政の事は社會の風地を高し優等の男子を撰擧するに効ありたりと（未完）

●佳傳

○ジヨセフヒン、バットレル夫人

英國と太陸諸國とに於ける彼の尤も嫌惡すへき黴毒撿查條例に反對して廿年間一日の如く筆に口に辨論して止まず遂に當



年之を全廢するの幸を英國に現ぜしめたるは主としてバットレル夫人の力なり抑も英國に於て此條例を見るは恰も我日本國に於て娼妓の公許を見ると同權の關係あり苟しくも眞正の德義を知り且つ眞正に女流の爲に慷慨する者は之を見て安ん

ぞ默視すべけん夫人が廿年前初て此論を主張したる時は世人多くは之を嘲りたり然るに今や大英國の議員は全員總躰の贊成を以て之が廢滅に同意し女皇陛下も亦直ちに之を認許ありたり現今我國の妓樓を全廢し我國の娼妓を救濟し我國の道德をして大に改變せしめんと欲する者は夫人が英國に於て遭遇せる困難は固より甘んじて之を嘗めざる可らず而て他日英國に於ける當年の幸を見るは實に確信して疑ふ可らざる也英國ポールモールバジェット新聞に有名なるかのステッド氏は近日夫人の傳紀を編さるゝと聞けば吾人は他日細密にその傳を叙するを待べし茲には前號フランセス孃の演說中に同夫人の事を賞揚ありたるの紀に因りたゞ其肖像を揭ると云ふ

○松嶋佳人傳　（第五回）

小勝は泣沈みたる顏を振上げ毅然として諫るやう郎は多年勤王正義に御志を傾けて幕府の暴逆を見れば腸をさくやう思はるゝとまで仰ありし御心を今日一日に何とて斯く變改し玉ふや事の善惡を問はず一旦取りたる主義を改め昨日の友を今日の敵とするは尋常の丈夫も尙ほ爲すを愧づると承はり候を况してや當今　皇威委微し志士の尤も慷慨すべき折と存ぜられ候とき卑くもかく御心を曲げて汚はしき御行あらんとはそもや何如ある御變心ぞや郎もし從來の非をさとり玉はゞ何とて身を退き世を隱れて時の還るを待ち玉はざるさらで權威に驕り民をないがしろにする人を賴み一身の榮利を謀り玉はんとは日來の御氣象とは思ひ侍らず亡父君侯の命を受て京地に出てたるは郎が國の爲に御盡しある御心と同じかれは父不幸に落命せし后も遺志を果して玉はらんは郎の外にあらじと思ひたるぞ口惜しき限に候大原さまとやらも兼てより勤王無二の御方と承はり候を、ヤー女に似氣なき雜言雜辨聞くべき耳は持たず誰かある此女は狂氣したりと見へたり早く追出せと云ふ新太郎の命に家奴ども二三人走り來り言ひ爭ひ泣き叫ぶを容謝もなく引立て作ら追やりぬ

昔し周公をして流言の日に死せしめ王莽をして士に下るの年に逝かしめば一生の是非たれ有て知らん新太郎は家に歸りて狂暴放言し書生を追出して强飲放吟したるが紀州の使者中嶋安藝の來訪ときゝ惶て蹈みて奉迎しむさくるしけれども先づく此へ、左樣恐まりました、早速伺候仕るべしなど昨日の松嶋外史には見る可らざる調子あり斯て明日は侶人數多引倶して笑ふ人泣く人を後に殘し行列見よがしと公行して大坂なる紀州屋舖へは着しぬ


月耕

塲ありと記して大凡そ此世に酒害あらん限り吾等全力を盡して勇進戰鬪せざる可らず

此れウイルラルド孃昨年の演說の大意なり以て米國婦人が社會の爲ゝ盡力する活潑の摸樣を推知し得べし本年ハミン＝アポリスに於て年會を開くべき定めなれば思ふに去十月には既に其集會ありしとならん吾人は遠からざる內に其報に接し更に當年中に於ける米國婦人の事業を示すを得べし

○理學一夕話

昔しアーキメデスと云へる名高き理學者あり王の冠をつくらせたる時用ひたる白銀の眞物なりや否やを撿査せんとして其方を得ずいろ〳〵に考へ盡したる後ふと浴みしけり然るに桶の湯多かりしにや躰を入るゝと共に湯水溢れて流れ出でたりアーキメデス忽然として悟るところあり快喜にたへで衣を着くるを忘れユウレカユウレカ(發明したり發明したり)と叫び乍ら裸躰にて市中を走りたり。これは理學上の發明の甚だ愉快あることを示す一つの例あれども凡そ眞に理學を研窮するものハ何人と雖も常にかゝる樂あるものあり去れば或人は天文を測るの樂しさに恍して溝に陷るを忘れ或人は研窮の面白さに婚姻の當夜花嫁の許に至ることを失念したり又近代の大理學者ダルヰンは一生涯たゞ生物の研窮に餘念なかりし人あるが其勉强は必竟理學の愉快至極なりしゆゑと云へり故に平素多病ゝして尋常人の健康ゝも及ばざりしを一日として其勉强を廢せしとなく死するの前數時間までも床の上にて草を目鏡にて照らし見たりとの傳あり

昔し我邦の人は尤も小さき者を罌粟粒の如しと云へり然れども今若し顯微鏡を以て之を照らせば此の小さき粒の內ゝは尙ほ世界ひろしとして住居する數多の小き虫あるを見るべし然るに此の小き虫は尙ほそれ〴〵の器械を具へて身躰を營養し躰內にはまた更に細微あるもろ〳〵の道具を藏めて此道具には更に細密ある數多の仕組あるを見るべし故に今日顯微鏡を以て尤も細微なりと認るものよりかの罌粟粒を見れば恰もこれ蟻が須彌山ゝ於ける程の相違あることあり。又吾等は昔し日本を以て天下第一の土地と心得支那天竺廣しと雖も六十餘州に及ぶべくもあらずと思へり然るに今日萬國の地圖を開いて之を窺へば豈圖らんや日本と云へる帝國は尋常の輿地圖中ゝは殆んど認めがたき程の小國なりと歎けり然らバ此全世界ハ何如ほどに大なるものなりやと云ふに此れ程のものは宇宙に備數しれざる程に運行せりと云へり仰で天を望めば晨星濱砂の如

く多し此等の星みな此世界の如く大なるものありや然らば此程に多き數多の星を懸くる此の宇宙は果して何如程に大なるものありや吾等瞑目して大抵此程ならんと思へば其さきも亦宇宙あり然らば此程かと考へ直せば其先もまた宇宙あり茫漠として邊なき此大天地はなかく〳〵に望遠鏡もて窺ひ盡すべきにあらざるあり然れども此望遠鏡もて知り得たらん限りより吾世界を見ば此世界やたゞ須彌山上の罌粟粒なり況んやかの日本と云へる大帝國の如きはたゞかの罌粟粒中に住ふ小虫の一つにだも及ばざる者と見ゆべきなり

されば理學を知りたらん人の目には此世界の外に數多の世界あり此世の物品の外に數多の品物あり人は櫻花の爛熳たるを見てたゞ一時のながめとすべし然れども理學者の目には花の紅き黄き皆それ〴〵の理由あるを見て味言ふ可らず胡蝶の翩々として戯るゝを見れば茲に高尙なる妙工の存するを思ふて春窓の恨なんどなかく〳〵に起るべうもあらず一塊の石も之を細視すれば非常の理あり一握の土も之を分拆すれば莫大の道あり世間の事物一として愉快なる道理なきものあらずと思へば心中自ら爽快にして世上の富貴名譽など云へるものは無味淡泊なる死物のやう思はるゝとなり故に吾人は此後時々理學上にて尤も愉快とする道理の大略を談じて讀者と共に一箇の新樂園に遊ぶの樂を受くべし

○いへのとも

答の部

○十五の答　妊娠前后の心得方につきては諸大家の高說を掲載せられたれば余は嬰兒の養に一日も忽諸にすべからさる最大要品たるかの乳汁のことに付世の產婦の注意を乞はんとす。分產後恙無く乳の分泌あれば差支なしと雖も時としては疾病に罹り乳の分泌なく或は分泌するも病の爲に本母の乳を以て牛兒を養難きことあり此際には乳母又は動物の乳にて養育せざるべからず而して乳母の良否を撿査するは最も大要件なるが故に其精密なる撿査は醫師に依賴すべきこと固なり然れ共時としては乳を要するの急なるが爲に醫師の撿査を受るの暇なきことあり此時は自家の撿査に依て乳母を鑑定せざるを得ず故に右止を得さるに方り乳母を擇ぶに於て注意すへき諸要件の大略を左に掲示す

●一乳母は本母と殆んど同年齡にして其分娩も亦略同時なるを良とす

(イ)乳母は强壯健康ならざるべからず勞瘵或は梅毒の如き病

の有無を密に檢査すへし顔面蒼白にして常に咳嗽略痰等ある者ハ撰ぶ可らず

（ロ）乳腺ハ能く充滿して之を按するに柔かにして乳頭ハ正しき形狀を以て突出し瘡傷なく且つ手を以て搾るときハ充分の乳汁、、、、、、し

其乳 [illegible]

るに [illegible]

（ハ）[illegible]

り [illegible]

（ニ）[illegible]

も [illegible]

は [illegible]

（ホ）[illegible]

る [illegible]

中 [illegible]

三 [illegible]

は [illegible]

主 [illegible]

●論說

○女流の戰爭　博言學士　イーストレーキ

左の一篇は東京獨立新聞の編者イーストレーキ君より惠送ありたる論文を抄譯したるものなり

天下に文權を付與すべきや否やは久しく理學者及び政論者の

此の辨論一

すは其腕力或

い何の事に

に於ては亦

民たるの義

とに於て遙に

を見る如此き

れるものあり

あり之に據

り女子畢生の

あり其家族の

然るに何更に

と云ふあり蓋

にのみ隨ふべし

とするなり故に家事を治めて尤も勉勞し尤も節儉し尤も倦まざるを以て婦德の上乘とはなせり。又印度に於ては內房に外事を入るゝとを甚しく嫌惡す其趣は恰も家風嚴なる支那家族中の閨房に似たり茲には最も近き親族の外は敢て外人の立入るを許さず故に內房にあるの女子も亦た敢て戶外に出るを望まず啻に望まざるに非ず到底外出するとを能せざる也。日本人は昔し何事に關らず支那の制度を尊敬したるが上に右二國民の行爲は更に其範例となりて此邦人の心を支配したり故に此支配を破り得べきものはたゞ西洋の文明を更に深く尊敬するの一事あるのみならむ日本に於ては今日と雖も夫妻同伴し或は共に車馬を馳るが如きを見るは尙非常の事なり階級いよ〳〵低き民種に至れば男女間の區別は尙更に著しくなりて夫の世界は婦の世界を離るゝと遙に遠し之を以て婦は夫の心友にあらず又その助手にあらず只だ之に隨ふのみなりとは上下推なべての規則となれり此故に敎授外山君が其近著に於て主張ありたるが如く孔敎は如此く世を卑しむの故を以て吾等が大に擯斥すべきものなるべし然れども此敎に反對する事物の何如なるものあるに拘らず彼の大聖人(孔子)の道は日本の社會に於て尙ほ過分の權力を有するなり

孔子曰く男は天に代りて万事を宰し女はたゞ從順して男子の命を行ふものなり故に女は自ら何事をも決する能はず且つ三從の義ありて必らず之を守らざる可らず未だ嫁せざれば其父と兄とに從ひ既に嫁すれば夫に從ひ夫死すれば其子に從ふべし、又女は再婚を望む可らず、號令決して閨房より出づべからず、女の務は只だ食と酒とを調理供御するにあり、室外の事は善惡ともに知らざるを可とす、葬に會して國境を越ゆ可らず、一身の念を以ては一歩も步む可らず、自己の考を以ては何事をも決す可らずと實に女子を輕んずるの敎と云ふべし然れども支那の婦人は皆限なく此敎を遵奉すと思ふ可らず今や南部の諸州には婦人の結黨あり多くは娘孃にして皆共に獨立の運動を爲さんとを同盟し相約して人と婚せざらんとすこれ嫁して永久閨房に抑へらるゝの不運を避んが爲めなり或る時は此同盟 廣東 廣西に甚しく流行したるが故に政府は遂に之を禁ずるに至りたり。又印度の婦人は支那の婦人に比して少しく多く自由あるが如しと雖も近年亦同樣の反動を起すに至れり夫死して之を火くとき寡婦も共に殉して身を焚くと云るかの恐るべきサッテー(殉火)の禮は今殆んど斷えて其他女を困しめたる數多の惡風も亦之と共に消滅したり特に過る十年十五

年前來印度の女は數種の方途に向つて其智能の證を示し或は歐洲に有名なる諸大學に醫學士の學位を領し或は詩人論者たるに適せる其才力若くは才能を現し或は法庭に其名を得或は社會改革者として又其名を揚たり今や文明の大手は迷信、無智、守舊、等の巢網を破り去らんとす此時に當り昔年の酷教を亞細亞の婦人に守行せしめんと欲するは抑も亦た難しと云ふべき也

西洋には特に英蘭及び合衆國を初として其の著名なる新聞雜誌上に於て近來屢ば女子同等の問題を議論し婦人自らその論列に入りたり而して此等の婦人は女はたとひ他の點に於て男子に劣るとありとするも其文壇の高位を占るに適するとにつきては能く自ら十分に證明したり故に吾等は此事を尤も深く疑ふ所の人に對するも倘ほかのマダム、デー、スタイル。せヲヂ、エリヲツト。エリサベス、バルレツト、ブローニング（三夫人共に有名の文人なり）等の文章を指示するに及ばず（至る所に其證數多あるべき也）歐洲には名聲富貴兼ね得たる女流の文人六百人あり合衆國には比例上更に多くの女流あるなり然れども近日此事に關して復大なる議論を起したる者はかのヲウイダと云へる婦人なり夫人は小說家たる不厭應の運筆を以て女が男子よりも更に無頓着に、更に不正直に、更に暴虐に倘更に不道德なるとを強く主張し女子に政權を公許せば世に必ず亂暴と不幸とを伴ひ來るべしと云へり斯して手套を投下したれば女流中の反對論者は競ふて之を取上げ（戰の挑みに應じて）答論したり其一例として次に揭ぐるはリバーモア夫人がノース、アメリカン、レビウ雜誌に寄せたる者の抄畧にして篇中には日本の讀者に新奇なる事實の數多あるなり

英米に於ける女子參政論の結果は多年前すでに此世界に現れたり即ち今を距る十五年前英蘭には男子と同樣にして獨婦にも亦た府務投票の權を與へたり爾來之が爲に大なる良果あり特に學校の管理貧民の救恤等に關しては更に大なる成功を見たれば去年蘇格蘭に於ても亦た同樣の權を女子に附與するとなれり又千八百八十年にはアイルヲフマンの女子に限り價二十弗の土地を一ケ年間所有したるものには國會議員投票の權を附與せられたり然るに千八百八十一年に至り此等の婦人が始て投票を行ひたる時該地方の新聞紙は論じて云く政事上の此新分子は尤も驚くべき樣に於て運動せりと又カナダの諸州に於ては未婚の女子に府務投票權を與へたるに彼等は堅固相當の精神を以てよく其財產を使

用したりと云へり又スウエーデンにては府吏を撰擧するの權を女子にも同權に附與し尙且つ上議員を撰擧すべき上等委員を撰擧するの權をも之に附與したるに女子のよく適任せることを認めたりアウストリアも亦た之と同じく千八百六十五年の布達により凡そ女子にして府、州、國等に關する公の撰擧に參せんと欲せバ撰擧場に己の代となるべき男子の朋友を出して其意見を投票するを得べしとありたり又羅士亞は數百年來すでに府吏及び州吏を撰擧すべき投票權を女子に附與したり

合衆國に於ける女子參政論の運動は數に於ても又德に於ても既に尤も大なる地位に達したるが上に現今尙ほ未曾有の速力を以て進行す彼のワイヲミング領の如きは千八百六十九年に於て既に女子に十分の參政權を附與したり其後十年の末に至りハーバード大學の卒業生キングマン足下及び該地高等法院に四年勤續したる判官某れ共にボストンヘラルドに投書して云く吾領內の高等なる婦人は適當且獨立して投票したり又此人等は黨派上の僻見に依て盲せず社會上の感化に依て迷はされざりき要するに女子參政の事は社會の風地を高し優等の男子を撰擧するに効ありたりと（未完）

●佳傳

○ジヨセフヒン、バットレル夫人

英國と太陸諸國とに於ける彼の尤も嫌惡すべき黴毒撿查條例に反對して廿年間一日の如く筆に口に辨論して止まず遂に當



年之を全廢するの幸を英國に現ぜしめたるは主としてバットレル夫人の力なり抑も英國に於て此條例を見るは恰も我日本國に於て娼妓の公許を見ると同權の關係あり苟しくも眞正の德義を知り且つ眞正に女流の爲に慷慨する者は之を見て安ん

ぞ默視すべけん夫人が廿年前初て此論を主張したる時は世人多くは之を嘲りたり然るに今や大英國の議員は全員總躰の賛成を以て之が廢滅に同意し女皇陛下も亦直ちに之を認許ありたり現今我國の妓樓を全廢し我國の娼妓を救濟し我國の道德をして大に改變せしめんと欲する者は夫人が英國に於て遭遇せる困難は固より甘んじて之を嘗めざる可らず而て他日英國に於ける當年の幸を見るは實に確信して疑ふ可らざる也英國ポールモールバジェット新聞に有名なるかのステッド氏は近日夫人の傳紀を編さるゝと聞けば吾人は他日細密にその傳を叙するを得べし茲には前號フランセス孃の演說中に同夫人の事を賞揚ありたるの緣に因りたゞ其肖像を揭ると云ふ

○松蔭佳人傳　（第五回）

小勝は泣沈みたる顏を振上げ毅として諫るやう郎は多年勤王正義に御志を傾けて幕府の暴逆を見れば腸をさくやう思はるゝとまで仰ありし御心を今日一日に何とて斯く變改し玉ふや事の善惡を問はず一旦取りたる主義を改め昨日の友を今日の敵とするは尋常の丈夫も尚ほ爲すを愧づると承はり候を况してや當今　皇威委微し志士の尤も慷慨すべき折と存ぜられ候とき卑くもかく御心を曲げて汚はしき御行わらんとはそもや何如なる御變心ぞや郎もし從來の非をさとり玉はゞ何とて身を退き世を隱れて時の遷るを待ち玉はざるさらで權威に驕り民をないがしろにする人を賴み一身の榮利を謀り玉はんとは日來の御氣象とは思ひ侍らず亡父君侯の命を受て京地に出でたるは郎が國の爲に御盡しある御心と同じかれは父不幸に落命せし后も遺志を果して玉はらんは郎の外にあらじと思ひたるぞ口惜しき限に候大原さまとやらも兼てより勤王無二の御方と承はり候を、ヤー女に似氣なき雜言雜辨開くべき耳は持たず誰かある此女は狂氣したりと見へたり早く追出せと云ふ新太郎の命に家奴ども二三人走り來り言ひ爭ひ泣き叫ぶを容謝もなく引立て乍ら追やりぬ

昔し周公をして流言の日に死せしめ王莽をして士に下るの年に逝かしめば一生の是非たれ在て知らん新太郎は家に歸りて狂暴放言し蒼生を退出して强飮放吟したるが紀州の使者中嶋安藝の來訪ときゝ惶て謹みて奉迎しむさくるしけれども先づく此へ、左樣恐まりました、早速伺候仕るべしなど昨日の松崎外史には見る可らざる調子あり斯て明日は侶人數多引俱して笑ふ人泣く人を後に殘し行列見よがしと公行して大坂なる紀州屋舗へは着しぬ


月耕

●寄書

○粧飾の弊を戒しむ

横濱　船越鼎太郎

進化論者たるの眼を以て廣く生物社會を通覽すれバ蛺蝶の類にありては其織翅の文彩艶美なるもの飛禽の類にありては其冠毛翼尾の壯麗華美なるもの多くは其雌にあらずして雄にあり之れ雄の初め美麗なる裝飾を用ひて雌の歡心を買ひ其の情慾を遂げたるの方便數万年間に進化して終に今日の現狀を成し得たるものなるべし又此の原理に由て草昧の人種を觀るに其身躰を專ら裝飾するものは婦人よりはかへつて男子に多し(本邦にても上古は男子のみ結髮して櫛、玉鬘などを飾りたりと云ふ尤も神功皇后の結髮せられたるハ御征討の時男子に擬裝せられしを書きたるものと知るべし)然れども世稍や開け人智少しく進むに隨て女子は唯男子の外貌のみに因て結緣を決せず己の生涯を托するに賴もしきものを選んで夫となさんとするの念を起し男子も亦た好偶を獲るには只管ら外貌を飾るよりは寧ろ知識を博め技藝を練ることこそ大切なれと覺り來たりぬべし然れども開化の進度猶低きほ間ハ男子は婦人を輕んじ其妻を玩弄物視して牝鷄の晨するは惟れ家の索るなりなど丶勝手氣儘の理屈を唱へ毫も婦人の意見を容れざるの風習あり去れば賢き婦人も無用の長物となる道理なれば男子は外貌の婀娜たる婦人のみを選み情慾を放にするを以て足れりとす故に婦人は知識を磨き技藝を練るよりは外貌を粧ふを以て大切なる手段となせり斯く男子の心鄙劣なる世には賢き女子も路頭に迷ひ氏なき婦人も玉輿に乘るの禍福顚倒もあるなるべし然れども世の益々進步して婦人の知識技藝も彌々上達し男子に於ても亦た婦人の意見を容るゝことを必要なりと認めたらんには外貌よりは知識技藝の優れたる婦人を慕ふ風盛んに行ハれ裝飾のことは漸く衰ふるに至るべき道理なり是を以て考ふるに人智の幼稚なる間は男女の選擧法專ら裝飾を先とし才智を後にするが如し故に濫りに裝飾を事とするものは未開時代の卑劣手段を以て人を迷はし人を欺くものと心得べく又裝飾の美麗なる人を見る時は未開時代の卑劣手段を以て己れを迷よはし己れを欺かんとする人なりと用心するも決して不可なきなり

近來本邦の婦人ハ漸く男子の壓制を脫し其位置を進めんとするの傾向を來たし輿論大に動いて學者も皆之れに注目することゝなれり是を以て學に就く所の女子も彌々增加し又志ある婦人は慈善或は學術等を旨とし數人相集合して有益のことを計り彌々知識を博め技藝を練り益々婦人の地位を高めんとするは吾人の喜悅に堪へざる所也凡そ就學の女生徒には監督者あると課業に忙しきと思慮の卑しからざるとを以て徒らに虛飾に耽けり人の頭髮服裝抔を批評するを以て自ら任ずるの弊は必ずなかるべし又慈善學術等を主意とし集會せらるゝの婦人も亦其尤も高尙にして本邦女流社會の進步改良を計らるゝ人々なれハ集會の當日には早朝より一方ならぬ支度に手間どり頭飾服裝のみに心を配り大切なる集會の主意は丸て打ち忘れ之れに思想を廻らせしこともなく惟今日を晴れと着飾るを旨とし會塲へ出づるも己の意見を陳述することと抔は思ひもよらず人の精神をこらしたる意見も馬耳東風に聞き流し惟注意を怠らざるは已れの頭飾と襟元とに止まり數々手を上げて頭

飾を直し襟をつくろひなどし之れにて一場の集會を濟まし會場を退き歸宅したる後も會員の意見及び會場の景況等をば人に語ることなく唯會友の頭髮服裝容貌等のみを評するが如き鄙劣なるものは現今上流社會にはよもや一人もあらざるべしとは思はるれども社會の廣き萬一かゝる婦人のなしとは云ひ難し若しありとせばこれ女流社會の進步を妨ぐるの仇敵と云ふも不可なきなり

夫れ高尙の志想を抱き學識あるの婦人は富貴の人のみに限るものにあらず父母は僅かに公債證書の利子に糊口を凌ぎながらも愛娘に勸學をなさしめ或は父兄の薄給より學資を得て遊學をなし或は叔父叔母の勝手元に働きて月俸を節し寸暇の間に螢雪の功を積むなど志想高く學識博く吾人の稱揚すべき婦人實に世間に少しとせず又志想高き婦人は良人の資產を擇ばずして其人爲(ひとゝなり)を選むもの多ければ后來賴もしき人ありと思はゞ或は一貧士に嫁するも亦少なしとせず去れば女學校なりとも婦人の集會所なりとも若し奢侈虛飾の風盛に行なハれ學識博からず思想の高からざるを羞づる事なくかへつて某婦人の動作方正思慮卓越なるを慕はずして某貴孃の數々衣服を變換するの有樣を羨むが如き惡弊を來たさば女學校にまれ集會所にまれ決して善良なる結果を得らるべきものにあらず古來本邦の婦人は深窓の下に生長し萬事內氣なれば道理ある意見を表示することなく頓着せずも宜かるべき他人の誹謗なども之れを聞き流す事能はず故に偶々某婦人ハ常に衣服を變換することなしとか又は結髮の風笑ふ可しとか言はるゝ時は縱令誹謗するものゝ思慮淺く鄙劣なるものかなと心中には思へども己れの意見を衆人に述べて其朋友等の惡弊を矯正せんとするもの少なくかへつて其嘲笑を恐れ新衣を調製し虛飾品を購ふか又は學校を退き或は集會に欠席して之れを避くるか如き拙劣なる手段を行ふ者多し奢侈虛飾は豈女學校の目的ならんや集會所の主意ならんや夫れ奢侈虛飾は富人の之れを爲すも賢者の惡みを免れず况んや富有ならさる人にして之れをなすは少こしく理を知る人の見て快よしとせざる所なり余は今實に女學校及び婦人集會所を監督せらるゝ所の人に望むなり花美淫奔の虛飾を陋(いやし)み端正質朴の衣服を稱し徒らに他人の衣服裝飾を批評するの弊風を矯正せんとする如き氣風を其生徒或は會員に起さしめまた就學の生徒及び會場に臨まるゝ婦人は從來婦女子の花見遊山劇場等に趣くと同一の感情を以てする事なく寬大にして高尙なる思想を抱き服裝の誹譏は敢て意とするに足らず專ら其目的とする所其主意とする所を重んじ他日本邦女風の大龜鑑となさん事を切望す蓋し錦繡に包める炭團は繿褸に包める寳玉に如かざるなり

○宗敎眞假論　　小石川小日向台町

長榮女塾第二級生　伊岐定子

當今基督敎を以て女道とすべしとの議論あるに際し切要の問題なりと認るが故に敢て之を揭ぐ(編者、白)

凡そ世間の事物に眞あれバ又必ず之れに伴ふの假あるハ社會に於て免るべからざるの通患なりされど若此の眞假をして一目の下瞭然簡別し易からしむれハ則假も亦た憂るに足らすと雖多くハ眞假混合して辨知し易からさるか故に世人をして正否を判定するに苦しましむるものゝ勝けて數ふ可からず紫の朱

を奪ひ鄭聲之雅頌を亂たし莠草の秧苗を亂るの譬蓋し一二にして止まさるべし宗敎も亦然り釋氏天堂冥府を說けは基督も亦樂園地獄を論し儒敎天人兩倫を貫へは基督神の十誡を重んす而して各々氷炭相容れざるものあつて以て世人をして彼是適從に惑はしむ然れとも已に氷炭相容れざる以上は其間必す眞なるものあり而又假なるもの無かる可からざるなり夫れ然り世人をして此の眞假二者の別を容易に知らしむるの法則ハ經驗法に因らざるべからす譬へハ茲に二個の時辰器あり一個は純金を以て製し一個は鍍金を以て製せしものありとせんに二者各製造の始に當つてハ光輝赫灼として其眞假を辨知し易からさるべし然れとも年月を經過するに從つて眞なるものは益光輝を放ち假なるものは漸時鍍金脫落して其の本性を表はすに至るべし之れを實用するの年月は則ち時辰の眞假を判別するの經驗法なりと云ふべし又茲に兩個の人あり容儀秀端にして談論共に高尙なり而て其の志操の眞假未た知を得すと雖退ひて平常の品行を顧るときは又以て正否を節別し得べきなり此の經驗の法則ハ如何なる執拗論者と雖も亦た其跡を掩ふ能はず蓋し論より證據の俚諺此に於て平妙なりと云ふべし妾試に此の法則を假て以て宗敎の眞假に論及せんとす（未完）

○題小宰相局入水圖　　但馬豐岡　香雪女史

孤舟一夜恨如絲。魂向西天万里涯。水鳥聲寒柔櫓寂。朦朧殘月鎖娥眉。

●寄書　前載の外。長榮女塾大高阪竹子の文、齋藤新助氏の小野小町の話、橫須賀靑水常子の問、大分臼杵かなふ三保子の文等。正に落手仕候

●新報

○ノルマントン事件に對する婦人の感想　去月廿四日午后六七時の頃紀州大島の沖に於て暗礁に乘り掛け風雨暴れしきる間に見る〳〵沈沒したる彼の英船ノルマントン號には乘組員三十九名邦人の乘客二十五名ありたり然るに沈沒の際取下したる端舟三艘に打乘りて生命を助かりたるは乘組員の中二十六名の歐洲人と平素尤も親密なりたらんと思はるゝ支那ボーイ一名にて印度火夫十二人及日本の乘客二十五人は悉く紀海の泡沫とはなれり此災の餘りに東洋人のみ不幸なりしとの不思儀なるに神戸なる英國領事裁判所は船長及乘組員の申立を悉く是認して此過を全く罪なき者と判定したり此に於て吾國民中往々粗暴過激と見ゆる程に慷慨する者もあれど中に就き東京五大新聞の發起として此不幸なる日本乘客の遺族の爲に義捐金を募集ありたるは眞に懇にして且隱なる取扱と云べし外國にて斯る慈善の事行はるゝとあれば先第一に其事を贊成して應分の義捐を爲すは婦人なりと聞及たるが我國にも近來此美風起り曩に長崎事件ありし時は日下知事の令室を初として有志の貴婦人方より數多の恩賜を負傷者に送り玉へることなどあり吾人は斯道の爲に慶賀して措く能はざりしが

此度ノルマントン事件に對しても亦た一層斯る感想の吾女流に強くあれるは實に感謝すべきとあり

彼五大新聞にて義捐金を募集すと廣告ありたる後第一ゝ義捐に應ぜられたる方々廿九名の御内には伊藤伯爵夫人を初として貴婦人凡そ十三方あり爾來今日(廿二日)に至る迄にハ日々の寄附者中夫人、娘孃、家内、下女、等の名を以て義捐さるゝ女流大抵三が一に居れり其が中にも愛宕下東京病院の看護婦並に看護女生徒廿七名より金三圓、松香舘の女生徒十六名より二圓五十錢、明治女學校生徒中より九圓五十錢、青山小學女生徒並に裁縫專門生より金若干、を送られたり、又駿臺英和女學校にて去廿日に死者廿五名の追悼會を開き同時に金若干を集めて同樣に寄附ありたるなど皆な特に目立ちて喜ばしき報なり又之と併せ記さんは少しく嫌あるやの思あれども彼の烏森日吉町金春金六町などに住ふ女及び茶屋女十數名より金三十餘圓を寄附したる併て當今の氣風を見るべし要するに我國の女流が斯る公の慈善に立入て世の不幸を分つの運となりたるはくれぐれも斯道の爲め慶賀すべきとあり

因に云ふノルマントン號船長ドレーキ氏の處置は之を非難するが中にも亦た憫むべきものあり神戸裁判所の處置は尤も此を不平とすべき中にも既に之を破毀すべき第二の裁判ありたれバ亦別に怨むべきなし但だ何如にも不幸と云ふべきはかの沈沒したる廿五名の同胞なれば斯る事のあるとなきとに係らず吾女流は幾重にも彼の義捐の事に盡力あるべき筈なり

○婦人慈善會　にてハ伊藤伯爵夫人を始め百餘名より前頃に掲ぐるノルマントン號溺死人の遺族へ扶助金を贈るとにて去廿日は同伯爵夫人の邸へ井上、大山、松方、谷、其他十一名の貴夫人方集會し種々の相談ありたる由

○女官の洋服　宮内省の女官方ハ追々西洋服を着用する事となり既に夫〻注文せられしよし又先日飯田町の博愛病院へ皇后宮のならせられし時供奉の女官達は大抵洋服を着せられまた・皇后宮にも洋服を御着し遊されしよしにきく

○束髮の約束　海軍各軍醫の夫人一同の設立したる愛生社員は以來日本風の髮を結ぶ事を廢して束髮に限る事に約束を定められしと云ふ

○束髮の景況　本年春頃には一時衰退せし束髮も近頃ハ又非常に流行し山の手小川町本郷邊にては中等以上の婦女子幷に學校女生徒は過半束髮にて近頃ハ藝娼妓の如き下等の婦女に

は束髪を用るもの殆んど無き樣なれども上等社會の婦人方にハ束髪を用る者昨年よ比すれば三層倍も多き由にて昨年は寒冷に趣くに從て段々束髪も減じたれども今年は之に反して近頃に至り追々增加したれば今度ハ昨年の樣に容易よ衰退するとハ無る可し現に昨年迄ハ束髪を御用なかりし高貴の方々も近頃ハ悉く束髪にて恐れ多き事なれども過日　皇后の宮の菌狩に御幸遊ばされし折や又去る一日吹上御苑にてチヤリネの曲馬を御覽遊ばされし折など拜し奉るに　皇后の宮始め女官方悉く束髪洋服にて又去三日鹿鳴館の夜會に會せられたる婦人方百三四十名ハ悉く束髪にて中に和髷和服を着したるハ市來某の婦人一名のみありしと又去る八日觀菊の御宴の節參會せられたる五六十名の御婦人方も悉く束髪洋服にて和髷緋袴の婦人ハ唯一名のみありしと又過日海軍の軍醫某氏の洋行を見送られたる全部の夫人方ハ悉皆束髪にてありしが如此府下上流社會の婦人方よ束髪の行なはるゝのみならず田舍にても大に流行する由にて去る三日茨木縣公園地櫻山にて催したる全縣の師範學校中學校醫學校其他諸學校生徒の大運動會にハ安田全縣令が總裁にして師範學校中學校醫學校女學校等の中等以上の男女一千九百餘名にて女學校生徒ハ不殘束髪にして非常の盛會ありしと全地よりの報に見へたりしが其他各地方より續々報ずる所を見るに近頃大に各地にて束髪の行はるゝ由あるが蓋し人智の進むに從て鍋蓋然たる圓髷や蝦蟇然たる島田髷を喜こぶもの減ずるハ眞に當然のことにて數年を出ずして島田圓髷ハ其の先祖たる娼妓髷（島田髷ハ島田宿の娼妓より始まり圓髷ハ勝山娼妓より始りたるなりと云ふ）とあるか左なければ古器物博覽會にても出る樣になるハ蓋し遠きに非ざるとならんと或る束髪熱心の方より投書ありたり

○女職工の保護　印刷局の諸職工ハ此節短日の爲め出るにも歸へるにも薄暗き路を行くとなるが別けて女工抔ハ通路に於て惡漢どもにいたづらをされるも計れねば一川同局長より警視廳へ右保護の儀を依賴されしといふと十九日の改進新聞に見ゆ

○女學校　高等女學校にてハ來年一月より橫濱山手共立女學校の卒業生鈴木しん孃を敎員に委賴の約調ひたる由。六番町の櫻井女學校にてハ去十八日に同學校設立の紀念を兼ね幼兒寄宿舍の落成を祝されたる由同時ノックス夫人が演說ありたる勸話は尤も聽衆を動せし由其筆記ハ吾人に惠送ありし故後號に譯載すべし。去十三日は華族女學校開設の一周年期日に

つき課業を休み午前九時職員及生徒參集同時三十分式場に整列して御寫眞を拜し續きて學監は開校の令旨を朗讀し幷びに其儀を演說し了りて一同退散ありたる趣十一月十六日の官報に見ゆ。又同校の學監下田歌子は奏任二等に敍し敎授兼幹事色川國士氏は奏任四等に敍し（年俸千圓下賜）幹事兼敎授工藤一記、敎授佐野安、同秋山四郎の三氏は奏任六等に敍し津田梅子は同校敎授に任し奏任六等に敍し年俸五百圓下賜の旨何れも去廿日宮內省にて仰せ渡されたり。去る三日の朝野新聞に云ふ近來某貴顯の計畫により駿台邊に私立女子大學を設立せんとの企だては追々華族方等の賛成を得て既に成就の運に至れりと

○金澤甲種醫學校　に於て先年より區內の產婆を集め產婆講習會と云ふを設けて產科の學術を授け居りしが此の程全く講習を畢りたるに付き去月廿五日產婆三十一名に習熟證書を授くる爲め其式を行ひたりと去十六日の時事新報に見ゆ

○仙台婦人談話會　は去る廿日同地公園の揖翠館に其會を開かれたるよし

○下野私立敎育會　の常會に於て學務委員伊藤有隣氏は梅田書記官にかわりて女子敎育の爲め女子高等師範學校を建設するの方法を會員に諮問されしよしに聞く

○宏璉會　安房國朝夷郡御原村角田とみ女史（千葉女子師範學校卒業安房郡北條小學校敎員）外數名は此程見出しの如き會を設立されたり其目的は婦人の風俗を改良し社會の風潮と共に上進を謀るにありて其事業の第一は割烹、裁縫、禮節、理髮等の是非を辨じ且つ之を實施し其他名望篤厚の男子をば名譽會員とする等十餘箇條の規則を設け目下會員を募集中なるよし去廿日の敎育報知に見ゆ

○大學入學志願者　帝國大學及高等中學へ入學を乞はるゝ女子は本誌第卅七號に揭げたる木村氏の兩娘を初としかの日本婦人纂論を編輯ありたる井上直女及び神戶の女學校を卒業ありたる香坂とら子（當今頌榮女學校の敎師）同卒業生戶川小鹿子（當今明治女學校の敎員）等にて尙ほ其外にも同樣の志望をいだかるゝ人數多ありときゝぬ

○大坂婦人懇親會　去月廿三日中の島自由亭に於て婦人懇親會を開くとのことなりしが右發起人は府下東區唐物町四丁目破多野花涯と云へる婦人にて當日は滋賀、京都、兵庫、岡山地方より官吏、豪商、紳士、新聞記者等の細君達凡六十名程出席するとのことなるが大坂各官衙にては高島中將、兒島控訴院

長の夫人も來會され又建野府知事の令閨にも頻りにこの擧を賛成なし居らるゝが過日同知事養父病死され當時忌引中なるに付出席は厭應せられ當日は只参観として臨場せらるゝのみ又當日は男子の席場へ臨むとを禁じ席上の周旋向は各〻召使はるゝ下婢を以て充てらるゝ都合にて席上揮毫演説等もあるよし大坂日報に見ゆ

○大坂裁縫場　南區育英小學校附屬の女子裁縫場は去る十五日より開業せられしよしに聞く

○製糸業傳習　廣嶋縣奴可郡にては大日本農會員の内藤正氏外数名の發起にて同郡森村に製糸傳習所を設け一期を三十日として十四歳より二十五歳迄の女子二十名づゝを募り專ら製糸の法を教へ同地方の蠶業を擴張せんと頻りに計畫中なりとぞ（十一月十四日毎日新聞）

○裁縫所　駿州富士郡平垣村の裁縫所は一昨年開設せられし者なるが爾來進歩の速かにして今日に至りて既に三十餘名の生徒を見るに到る同所は森口某の建設にかゝるものなりと

○三軒屋紡績會社　大坂の同會社にては追〻事業の盛大に趣き工女の不足を告ぐるに到るを以て今度更に百餘名の工女を雇入るゝよし内外新報に見ゆ

○長岡女紅場　長岡女紅場は元と長岡士族が就産の爲めに設立したるものにて最初政府より資本として一萬五千圓を借受しも其後追々損を重ね僅かに五千圓を餘すばかりの有樣に立至りしより先頃同所表四の町の小林傳作氏へ內事を委托せるとに決せしが今度其規則を改むるとに取極め委員十名を選擧したりと同地の新聞に見ゆ

○雲州松江近村の婦女子　同婦女子が農業の間を以て日〻稼ぐ處の仕事を聞くに秋鹿郡古志、古曾志より佐陀村近傍及び島根郡佐田村等の婦女子は藺席及び呉座を造り意宇郡津田村邊の婦女子は菅を植ゑて菅笠を製し島根郡南持田、坂本、福原各村の婦女子は春は山野に蕨蕗の類を採り秋は同樣雁皮（製紙材料）を剝ぎ同郡三講武村の婦女子は藤布を織る由右は近村の山々は勿論遠く伯州美作の山までも渉獵て藤蔓を伐採して持歸りて織出すものゝよし又た松江接近の各村の婦女子は概して荷賣を以て得る所の利益は莫大なる金高なるが婦女子同士の間に一種の競爭ありて男子も及ばざる所作ありとぞ逸食安坐父兄や夫の餘力にのみ依賴する都會の婦人は耻かしきことなりと雲陽新報に見ゆ

●本號には女學雜誌第四卷の目錄を添たり

廣告

女學書類取次

婦人地球週遊記（一册）英國ブラッセー女著、內田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。
日本之意匠及情交（一册）田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵稅六錢。
賢女脩身事蹟（三册）今川爾君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵稅十二錢。
ひざもとの敎（一册）近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵稅四錢。
いへのをしへ（一册）松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵稅二錢。
日本婚姻の弊害（一册）大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵稅四錢。
看病の心得（一册）笹川純一君著。本誌第卅五號に批評す。定價三十錢。郵稅六錢。
演劇改頁論私考（一册）外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵稅四錢。
社會改頁と耶蘇敎との關係 同前著。本誌第卅九號に批評す。定價廿五錢。郵稅六錢。
小兒健全示要（一册）岩田文吉君著。本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵稅十錢。
女子必讀（一册）進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵稅十錢。
朗蘭夫人傳（一册）坪內雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵稅十錢。
日本婚姻法論畧　一册）鈴木券太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵稅十錢
日本婦人纂論（一册）井上直女編。本誌第卅號に批評あり。定價二十六錢。郵稅六錢。

（右取次賣捌）　東京本鄉弓町一丁目廿番地　**女學雜誌社**

船越鼎太郎君著
産婦
小兒
攝生法
（新著）一册十八錢郵送稅四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を譏さゞるとを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出産の期日を知る法、姙娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飮まする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一册を座右に備きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣）東京本鄉弓町一丁目　女學雜誌社

基督教新聞
第百七十三號（十一月十七日發兌）

目次○眞理は自由を生ず、牧師の苦樂○敎報○論說。何故神が惡を造つたか、說敎演說の勢力は何の邊に在るやを論ず、○雜錄。秋夜の感○質問答辨○雜報及敎報○英文敎報○

（一册三錢郵稅一錢每水曜日刊行）

東京々橋區瀧山町六番地　警醒社

トウケウインデペンデント
東京獨立新聞
（第四十三號）（每土曜日刊行）

LEADING ARTICLES :—A National Reveille ; Social Responsibility ; Choshi-hazure.
DIE FRAUENFRAGE IN JAPAN—I ; THE VOYAGE OF THE KANRIN MARU—I ;
SELECTED TRANSLATIONS :—An Unbiassed View of the Matter ; English and Japan.
ON THE SHELL MOUNDS OF NAKAMURA :—By E. S. Uyeda.
THE STUDENT'S CORNER :—Foreign Rules of Etiquette, &c.

東京築地明石町二十番　東京獨立新聞社

驛遞局認可

定價

一冊。五錢　郵稅。一錢　（但府內無郵稅）
十冊。四十八錢郵稅。十錢（同前）
廿冊。九十錢　郵稅。廿錢（同前）
卅冊。一圓卅錢郵稅。卅錢（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢　府外ハ十八錢
二ヶ月分同　三十錢　府外ハ三十六錢
三ヶ月分同　四十五錢　府外ハ五十四錢
半年分同　八十八錢　府外ハ一圓六錢
一年分同　一圓六十錢府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行　一回　（廿八字詰）前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	幾々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	國々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同本郷區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所　本局　東京本郷弓町壹丁目廿番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.